第1回熊谷市荒川かわまちづくり協議会　次第

日　時　令和６年５月28日(火)
14:00～16:00
場　所　熊谷市立文化センター文化会館　第一練習室

１　はじめに、開　会

２　委員紹介、会長・副会長の選任

３　議　　事

（１）協議会の設立趣旨・規約（案）　資料１

（２）情報共有　資料２

１）計画の背景（かわまちづくり、計画の位置づけ、地域特性）

２）地域のニーズ（ヒアリング結果、市民アンケート調査結果）

３）かわまちづくり基本方針（事務局案）と論点

４）協議会とワークショップの検討プロセス

（３）質疑・意見交換　かわまちづくり基本方針について

論点１　かわまちづくりの目標・方針
論点２　計画対象区域の範囲
その他　自由意見

４　今後の進め方、おわりに、閉　会　資料３

【配布資料】
・次第
・委員名簿／座席表
・資料１　協議会について（設立趣旨、規約）
・資料２　情報共有　熊谷市荒川かわまちづくりについて
・資料３　今後の進め方について（スケジュール）

以上

熊谷市荒川かわまちづくり協議会　委員名簿(令和 6 年5月 28 日）12名

役職名	区　分		氏　名	所属
会長	学識経験者		田中（たなか）　規夫（のりお）	埼玉大学大学院 理工学研究科 環境社会基盤専攻 (兼)社会変革研究センター レジリエント社会研究部門
委員	地区を代表する者		野口（のぐち）　幸雄（ゆきお）	荒川自治会連合会
委員	関係団体を代表する者	商工産業	岡部（おかべ）　聡史（さとし）	熊谷商工会議所
委員			大澤（おおさわ）　重明（しげあき）	一般社団法人　熊谷青年会議所
委員		スポーツ振興	赤沼（あかぬま）　昇（のぼる）	公益財団法人　熊谷市スポーツ協会
委員		観光振興	野口（のぐち）　一都（かずと）	一般社団法人　熊谷市観光協会
委員		教育	小川（おがわ）　義人（よしひと）	熊谷市立桜木小学校
委員		福祉 子育て	高橋（たかはし）　美香（みか）	熊谷市障害者団体連絡協議会
委員			大﨑（おおさき）　幸恵（さちえ）	NPO 法人　子育てネットくまがや
委員		環境	須永（すなが）　伊知郎（いちろう）	公益財団法人 埼玉県生態系保護協会
委員			栗原（くりはら）　堯（たかし）	NPO 法人 熊谷の環境を考える連絡協議会
副会長	市職員		山下（やました）　克己（かつみ）	熊谷市　建設部

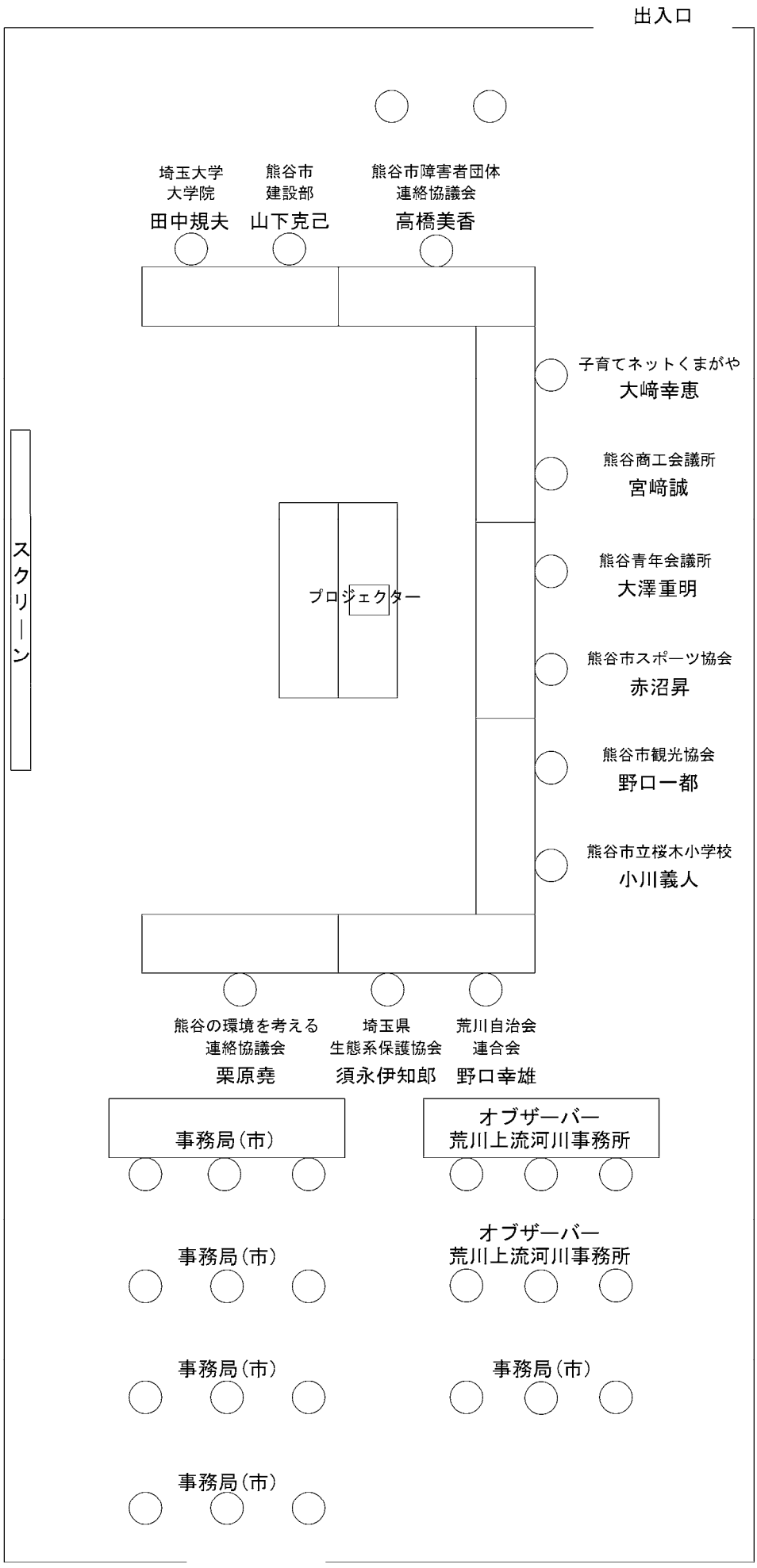
【事務局】

熊谷市　建設部河川課
都市整備部都市計画課
都市整備部公園緑地課
産業振興部商業観光課
総合政策部スポーツタウン推進課

【オブザーバー】

荒川上流河川事務所　流域治水課
河川環境課
徳島大学客員教授　澤田　俊明

座席表


出入口
埼玉大学
大学院
田中規夫
熊谷市
建設部
山下克己
熊谷市障害者団体
連絡協議会
高橋美香
子育てネットくまがや
大﨑幸恵
熊谷商工会議所
宮﨑誠
熊谷青年会議所
大澤重明
熊谷市スポーツ協会
赤沼昇
熊谷市観光協会
野口一都
熊谷市立桜木小学校
小川義人
スクリーン
プロジェクター
熊谷の環境を考える
連絡協議会
栗原堯
埼玉県
生態系保護協会
須永伊知郎
荒川自治会
連合会
野口幸雄
事務局（市）
オブザーバー
荒川上流河川事務所
事務局（市）
オブザーバー
荒川上流河川事務所
事務局（市）
事務局（市）
事務局（市）

資料 1

熊谷市荒川かわまちづくり協議会 規約(案)

（目的及び設置）

第 1 条　河川空間とまちの空間が融合した魅力ある地域を創出する取組を実現するため、地域の資源である河川の活用について、今後の方向性及び具体的な手法についての検討を行うことを目的に、熊谷市荒川かわまちづくり協議会（以下「協議会」という。）を置く。

（組織）

第 2 条　協議会は、委員 20 人以内をもって組織とする。

２　委員は、次に掲げる者のうちから市長が委嘱する。

（1）学識経験者

（2）環境協会

（3）商工会議所

（4）青年会議所

（5）自治会

（6）その他市町が必要と認める者（学校、スポーツ協会、観光協会、福祉会等）

（任期）

第 3 条　委員の任期は、2 年とし、再任を妨げない。

（会議）

第 4 条　協議会の会議は、必要に応じて市長が招集する。

２　会議は、委員の半数以上が出席しなければ開くことができない。

３　市長は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求め、意見又は説明を聴くことができる。

４　会議は、原則公開とする。ただし、会議を公開することにより公正かつ円滑な議事運営に支障があると市長が認めるときは、非公開とする。

（会長及び副会長）

第 5 条　協議会に会長及び副会長各 1 人を置き、委員の互選により定める。

２　会長は、協議会を代表し、会務を総理する。

３　副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

（部会）

第 6 条　協議会は、第 1 条に掲げる目的に関する事項を専門的に調査・検討するため、必要に応じて部会を置くことができる。

２　部会は、委員のうちから会長が任命した者をもって組織する。

３　部会に、部会長を置く。

４　部会長は、部会員の互選により選出する。

５　部会長は、部会を代表し、部会の事務を総理する。
６　部会の会議は、会長が招集する。
７　部会は、会長の承認を得て解散することができる。

（守秘義務）

第 7 条　会員は、協議会を通して知り得た情報及び機密情報について各々の責任において管理し、第三者に漏洩してはならず、協議会を退会した後も同様とする。ただし、協議会が認めた場合、またはその情報及び機密情報が公表されたとき以降は、この限りでない。

（庶務）

第 8 条　協議会の庶務は、建設部河川課が処理する。

（その他）

第 9 条　この要綱に定めるもののほか、必要な事項は、市長が別に定める。

附　則

この規約は、令和 6 年 5 月 28 日から施行する。

資料 2

目　次

1）計画の背景・・・

1） 計画の背景（計画の位置づけ）

➢ 計画の位置づけ

【第二次熊谷市総合振興計画】

将来都市像：
子どもたちの笑顔があふれるまち熊谷
～輝く未来へトライ～

関連政策：
- スポーツ・観光を通じて魅力を発信するまち
- 健康で安全・安心にくらせるまち
- 人にやさしい思いやりのあるまち
- 環境にやさしく自然が豊かなまち
- 快適で暮らしやすいまち
- 地域に根ざした教育・文化のまち
- 市民と行政が協働して創る満足度の高いまち

【第二次熊谷市総合振興計画】

【熊谷市都市計画マスタープラン】
将来都市像：**未来に向かって人や地域がまとまり・つながるまち　くまがや**
地域の将来像：**ヒト・モノが集まり、めぐることで、誰もが暮らしやすい地域**
関連施策：スポーツ・文化・健康拠点の機能充実、水辺・緑の活用促進・保全・整備

【地域防災計画】
基本的視点：**地震及び風水害に強い都市構造の形成、避難地の確保、地域防災力の向上**

【健康熊谷21・熊谷市第四次健康増進計画】
基本理念：市民一人一人が行う健康づくりを、地域社会で支援することにより、**『健康で安全・安心に暮らせるまち　くまがや』を目指します。**
関連施策：運動しやすいまちづくりの推進、社会環境の整備（健康教育・地域の取組促進）

【熊谷市スポーツ推進計画】
基本理念：**スポーツ熱中、生き生き熊谷**
関連施策：市民がスポーツを実践する楽しさを味わえる機会の充実、気軽に健康・体力づくりを行える環境づくり、スポーツ活動の推進、大会誘致、スポーツツーリズムの推進

【熊谷市環境基本計画】
将来の環境像：**豊かな自然　未来へ育み伝えるまち　熊谷**
環境目標：環境資源を大切にするまちを創ります、環境の保全・創造に寄与する人を育てます

【熊谷市緑の基本計画】
将来都市像：**子どもたちへ　緑を育み守るまち熊谷**
関連施策：市街地と荒川を結びネットワークの形成、荒川の水と緑に触れ合うことのできる空間づくり

【熊谷市自転車活用推進計画】
基本目標：**快適・健康・にぎわい・安全サイクルシティ熊谷**～誰もが健康で安全・快適に自転車を利用できるにぎわいと回遊性のあるまち～
関連施策：自転車を活用した健康づくりの推進・回遊性のあるまちづくりの推進

【熊谷市バリアフリー基本構想】
基本理念：**心つながる 人にやさしいまち 熊谷**
～ユニバーサルデザインのまちづくりの推進～
関連施策：熊谷駅周辺重点整備地区。道路、都市公園のバリアフリー化、心のバリアフリー

国（河川計画）

【荒川公園周辺再整備計画】
再整備のコンセプト：**スポーツ文化で人を呼び込む駅前交流拠点**

連携 ⇔

整合 ⇔

【荒川水系河川整備計画（大臣管理区間）】
河川整備計画上の整備メニュー
荒川大橋下流の左岸約2km区間は、計画流量に対する堤防の標準的な幅（現況幅4m程度）又は高さの不足が見込まれる区間であり、堤防嵩上げ・拡幅の検討が必要

整合 ↓

熊谷市荒川かわまちづくり計画

2

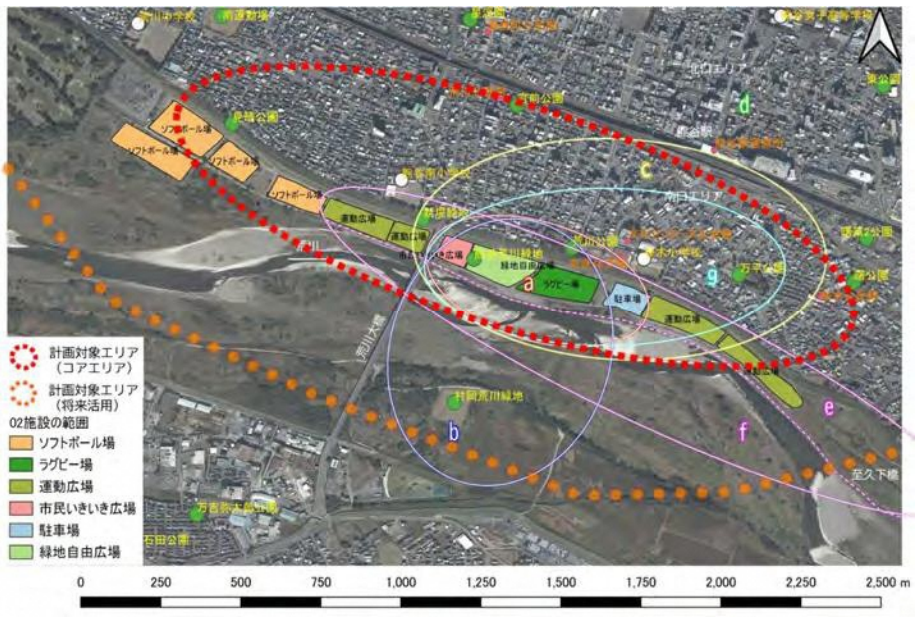
1） 計画の背景（計画の位置づけ）

➢ 計画対象エリア

・図中a～gは関係者ヒアリングで対象範囲に関する意見のあった場所を示しています。
・関係者へのヒアリングによる地域ニーズや実現性を踏まえ、コアエリアと将来活用エリアを設定しました。

A-2	計画範囲	・現案（荒川大橋～グランド）がやりやすい範囲とめえる	a
		・対岸（右岸）エリアを含めて整備する計画としてほしい	b
		・熊谷駅南口エリアのまちづくりとの連携が必要（荒川公園、新体育館、図書館、文化会館等）	c
		・駅からかわまちまでの歩行者動線が重要	c
		・かわまち、南口エリア、北口エリアの一体化（歩行者動線）する視点が重要	d
		・富士山の見える久下橋の方までつながった河川敷道、東屋、トイレ、水道等の休憩施設があると良い。	e
		・荒川大橋から久下橋までの区間を市下り等できたりすると良い	f
		・荒川敷地内から万平公園までを含む範囲へ拡大してほしい。歩行者動線が整備されていると利用しやすい。	g

（参考資料「ヒアリング結果」かわまちづくりの意見）



コアエリア
複数の意見区分が重なるエリアで、当事業の核として位置付けるエリア

将来活用エリア
複数の意見を包括した範囲で、当事業の効果が様々なかたちで期待できるエリア

3

1） 計画の背景（計画の位置づけ）

➢ 計画対象エリア周辺のまちづくりの方針

・荒川（計画地）は、県北最大の交通結節点**「熊谷駅」から徒歩5分の位置**に立地しています。

・熊谷駅周辺は市のまちづくりの中心を担う**「都市拠点」**に、荒川計画地周辺は**「スポーツ・文化・健康拠点」**に該当し、**交流人口拡大を図る重要なエリア**です。

・荒川は「水辺の軸」に該当し、**自然に親しみながら潤いや解放感を感じ、スポーツ・観光・文化を楽しむことができる空間、日常生活でスポーツ等を楽しみ、地域に愛着を感じる空間**を目指す方針となっています。

・人口減少に対応した持続可能なまちづくりに向け、**新たな交流拠点整備を契機に、都市拠点としての魅力向上に資するかわまちづくりを推進**する必要があります。



出典：熊谷市都市計画マスタープラン（令和４年３月）

4

1） 計画の背景　地域特性①　水辺の魅力

➢ 荒川の水辺空間の魅力

・荒川の自然と秩父の山並み、春の美しい桜堤、ラグビーなどのスポーツを楽しむ人々によって創り出される風景が、**熊谷市民に親しまれる故郷の風景**となっています。

・荒川の豊かな自然環境は、**荒川の自然資源を繋ぐ回廊、また都市の生物多様性の保全や、暑さを和らげる涼、温室効果ガスの吸収等に寄与する貴重な緑地・水辺空間**となっています。

・河川空間の利用にあたり、「荒川河川敷の保全と利用のあり方（国土交通省）」の主旨を踏まえ、**自然環境の保全に十分配慮する必要**があります。

・市民および地域住民に、春の桜祭り、夏の花火大会の**イベント利用**、荒川緑地や堤防道路を活用した**スポーツ利用や散歩やサイクリング等の健康づくり、隣接する学校の校外学習等**に利用されています。


風景（秩父連山の山並み）


熊谷桜堤


礫河原と野鳥の飛来


低水路の可岸に茂る植生


荒川の緑地・水辺空間


花火大会


散歩・自転車利用


近隣小学校の持久走大会

5

1） 計画の背景　地域特性②　歴史・観光資源

➢ 熊谷の発展・暮らしを支えてきた川　荒川

・熊谷は荒川の中流域に位置し、江戸時代より、**荒川は農地を潤す用水、穀物の製粉や絹産業を支えるを動力（水車）、物資の輸送（舟運）、休憩の憩いの場**として利用され、人々の暮らしには欠かせない存在。

・荒川の洪水から熊谷のまちを守ってきた**治水の歴史**（荒川の西遷、旧熊谷提）

・荒川と中山道が熊谷（まち）の発展を支えてきた**物流・利水の歴史**（江戸との舟運・農業用水）

・浮世絵に描かれている**中山道中の御狩屋の賑わい**（来訪者との交流の場、渡し）

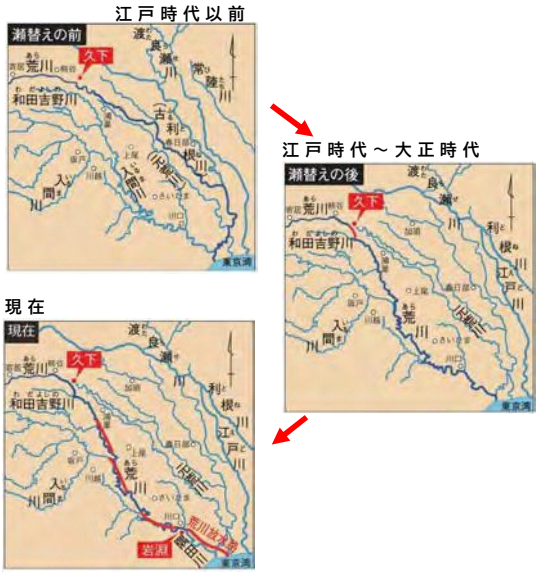
【荒川の舟運】



「荒川の西遷(せいせん)」により開発された舟運（物資の大量輸送）は、大都市・江戸の繁栄を支え、熊谷は江戸の発展を支える広大な農産地、絹産業地、江戸との物流の交通の要所として発展。

出典：荒川上流改修80年の歩み

【荒川の西遷】



出典：荒川上流河川事務所ウェブサイト

新田開発、舟運路の確保、江戸の洪水の防御などを目的として、江戸時代に熊谷市久下付近で荒川を締め切り、現流路に河川を付け替える大規模な土木事業が行われた。

1） 計画の背景　地域特性②　歴史・観光資源

➢ 荒川の恵みと暮らしの関わり（利水）

・**用水利用では**、荒川から取水するために、江戸時代初期に奈良堰をはじめとして6つの堰をつくり新田開発が進められました。

・一方で荒川は渇水で水不足になることも多く、そのたびに**水をめぐって農民同士の争いが多発**していました。

・今は水争いの解消や、安定した水を確保するため、昭和14年に六つの堰を統合する形で旧六堰頭首工が完成し、取水した農業用水は、大里用水を経て下流の**深谷市、熊谷市、行田市、鴻巣市に至る県北の一大農産地を潤し**ています。



出典：埼玉県ウェブサイト

荒川の恵みによる歴史・文化

〇安定した農業用水
　⇒水田裏作を中心とした**米と麦の二毛作が盛んに**。
〇荒川の河原に県で初めて桑の栽培開始
　⇒新川村を中心に**養蚕技術が発展、熊谷「絹の里」**
〇荒川の水を利用する染物
　⇒**熊谷染（県指定伝統手工芸品）**
〇荒川の水の流れを活用した**水車小屋（動力利用）**
　⇒米麦の製粉、生糸生産・織物・染物などの手工業生産を支える



熊谷染め



熊谷の昭和初期頃の農村風景
（六本の幹線用水路とその支流に56箇所）

出典：熊谷市ウェブサイト

現在も、荒川の豊かな恵みが暮らしを支えています

・農業用水⇒伝統の熊谷産小麦を用いた**「熊谷うどん」が名物**
・豊富な地下水⇒**市水道の７割は地下水**により賄う
・おいしい水道水
　⇒**「雪くま」暑い熊谷の新たな名物**



暑い熊谷を盛り上げる観光資源　雪くま
出典：熊谷市ウェブサイト



出典：熊谷観光局ウェブサイト

1） 計画の背景　地域特性②　歴史・観光資源

①旧熊谷堤



⑦旧中山道の荒川堤
（久下の長土手）



②星渓園



⑧みかりや跡



③竹井本陣跡の碑



岐阻道中熊谷宿八丁堤景



④星川



⑨久下の渡し・冠水橋の碑



⑤熊谷桜堤
（さくらの名所100選）



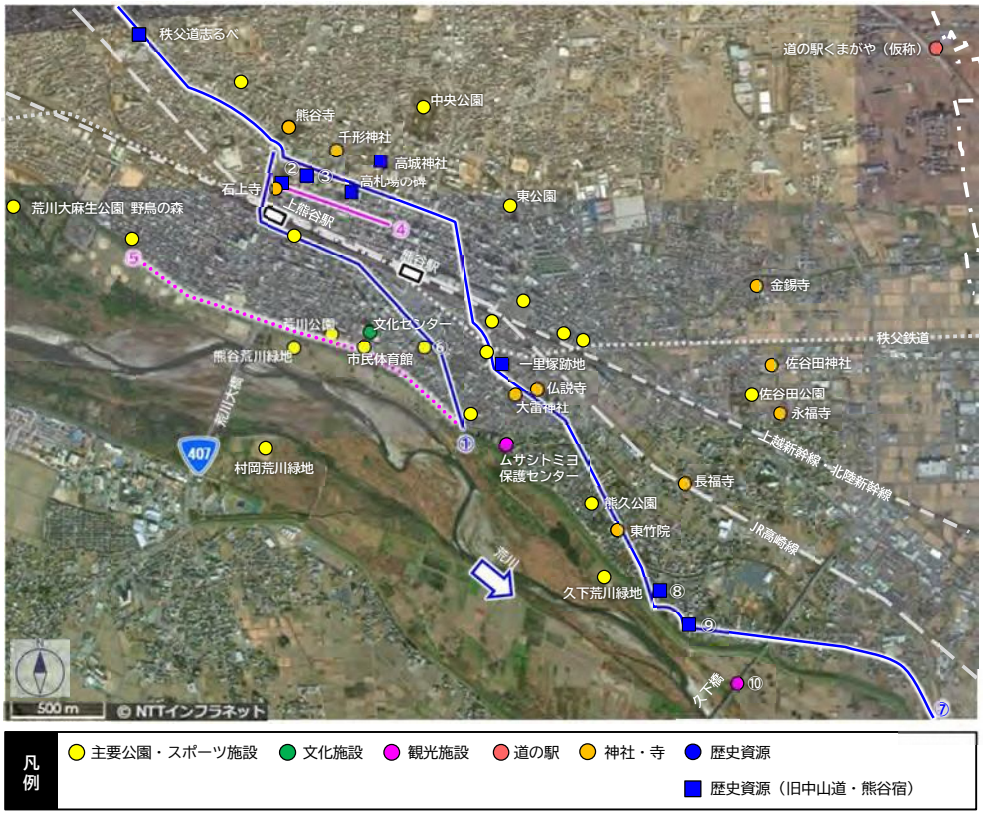
⑩久下橋
（関東富士見百景）



⑥万平公園



資源マップ（見どころ・名所）



1） 計画の背景　地域特性②　歴史・観光資源

①熊谷さくら祭
時期：4月
場所：荒川堤
（中心市街地区域周辺）



②熊谷うちわ祭・
熊谷えびす大商業祭
時期：7 月
場所：中心市街地内





③熊谷花火大会
時期：8月
場所：荒川河畔
（中心市街地区域周辺）



④とうろう流し
時期：8月
場所：星川



⑤星川夜市
時期：毎月第2土曜日
場所：星川



⑥星川だるま市
時期：2月
場所：星川通り



⑦熊谷さくらマラソン大会
時期：3月
場所：荒川堤
（中心市街地区域周辺）





出典：『第2次熊谷市総合振興計画　後期』　熊谷市、『熊谷市中心市街地活性化基本計画（案）』熊谷市
『熊谷市中心市街地活性化基本計画（案）』熊谷市、熊谷市HP

1） 計画の背景　地域特性③　自然環境

➢ 熊谷市荒川の自然環境

・荒川は秩父山地の甲武信ヶ岳を源とし東京湾まで流れる河川です。
・計画地は荒川の扇状地（扇端部）に位置し、**豊富な水と肥沃な大地**により、自然環境が形成されています。
・上流から下流までの様々な河川環境に応じた生物が生息・生育しており、計画地には、中流部の**砂礫河原特有の生物が生息・生育**しています。
・**荒川の連続する広大な河川空間**は、こうした上下流の多様な自然を繋ぐ回廊としての役割を担っています。
・計画地の上流には、県内でも有数の**野鳥の渡来地となっている「野鳥の森」**があります。



（レキ底の瀬：アユ、ウグイ、オイカワ等、淵：コイ等の大型魚類）
（レキ河原：コアジサシ、イカルチドリ類（鳥類）、
カワラバッタ等（昆虫）、カワラヨモギ（河原植物）が生育）


コアジサシ
【分　　布】本州以南に夏鳥として渡来し、繁殖。
【生息場所】大きな川の中州や河岸、湖岸、海岸の砂礫地や埋立地に生息し、コロニーをつくる。
【産卵時期】4～7月
【出典：水と緑のネットワーク荒川】

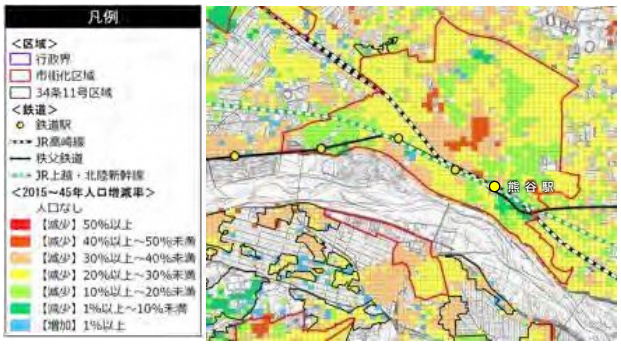

イカルチドリ
【分　　布】本州、四国、九州に繁殖。冬はほぼ日本全土。
【生育場所】河原や埋立地、荒地の砂礫地に生息。特に河川中流域の氾濫原で礫の多い所を好む。
【出典：水と緑のネットワーク荒川】



図 2-1　荒川水系の代表的な自然環境

1） 計画の背景　地域特性④　地域課題

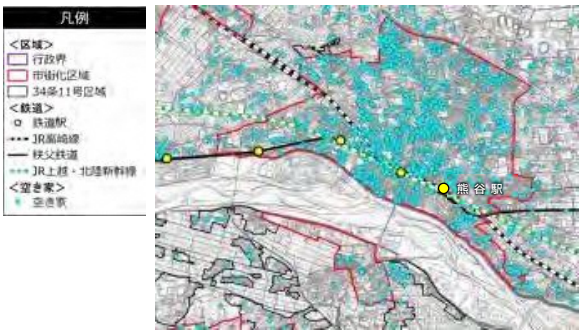
➢ まちの課題（人口減少・土地利用（空き家・低未利用地の状況））



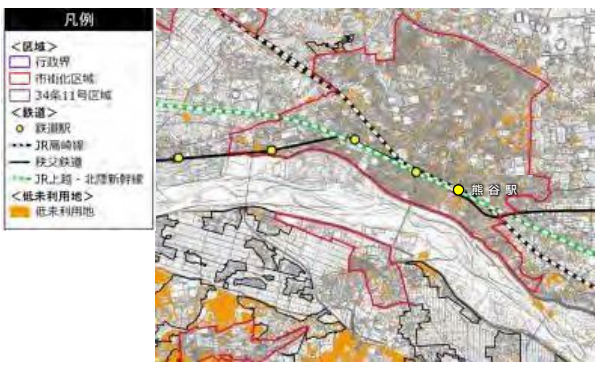
駅周辺の人口増減の状況
出典：熊谷市立地適正化計画（令和４年３月）

・駅周辺の人口増減の状況（2015～2045年人口増減率）より、市全体で人口が減少し、都市拠点である熊谷駅周辺においても10～30%減少することが見込まれています。

・低未利用地の状況、空き家の状況（R2.3市調査）より、熊谷駅南口および中心市街地において、近年は小規模な低未利用地や空き家が目立つようになっているため、魅力や賑わいの向上を図る取組が求められています。



空き家の状況
出典：熊谷市都市計画基本方針等策定基礎調査（R２.３）



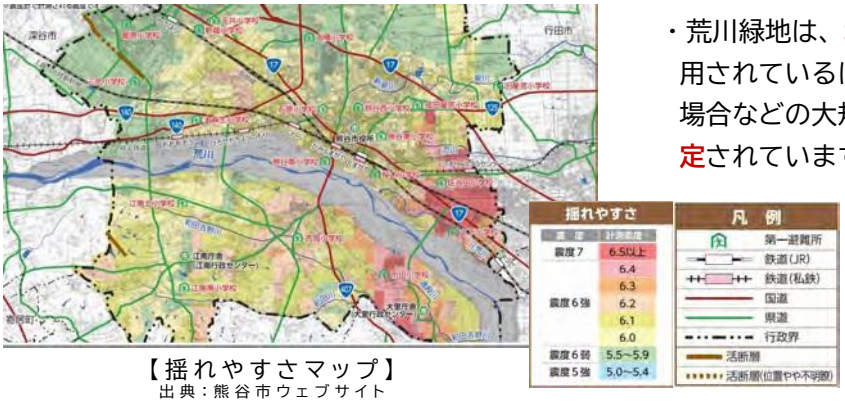
駅周辺の低未利用地の状況
出典：熊谷市都市計画基本方針等策定基礎調査（R２.３）

1） 計画の背景　地域特性④　地域課題

➢ まちの課題（災害リスク）



【荒川洪水浸水想定区域図（想定最大規模）】
出典：https://plateauview.mlit.go.jp/



【揺れやすさマップ】
出典：熊谷市ウェブサイト

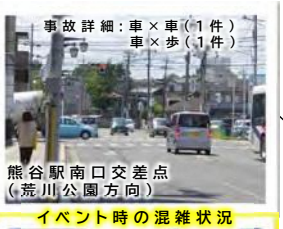
・洪水ハザードマップでは、**荒川が氾濫した場合に浸水被害（（浸水深0.85m 家屋倒壊等氾濫区域（想定最大規模））の発生が見込まれるエリア**となっています。

・計画地の堤防は暫定形状で未完成であるため、今後、**洪水に対し安全な施設として完成堤防としての整備（拡幅、嵩上げ）が必要**となっています。

・気候変動の深刻化、高齢化や単身世帯の増加、地域コミュニティの希薄化に対応し、**想定を超える災害への備えの充実、流域治水の取組推進、自助や共助の意識向上が必要となっています。**

・荒川緑地は、**地域の消防救急活動（ヘリポート）**に利用されているほか、地震による大きな火災が発生した場合などの大規模な避難にに適した**広域避難場所に指定**されています。

1） 計画の背景　地域特性④　地域課題



イベント時の混雑状況





イベント時の混雑状況



道路状況（歩道、幅員、交通事故）









イベント時の混雑状況



出典
交通量：令和3年度一般交通量調査結果
事故データ：埼玉県警察　事件事故発生マップ（全事故2021～2024.2）

用途地域：国土数値情報　令和元年データ
都市機能誘導区域・居住誘導区域：熊谷市立地適正化計画令和4年
ベース地図：国土地理院基盤地図情報

2） 地域ニーズ（ヒアリング）

➢ 関係者ヒアリング結果

意見区分と意見数・団体数（参考資料「ヒアリング結果」）

意見区分	意見数	団体数
A：かわまちづくり計画への考え方等	22	11
B：安全、安心に暮らせるまちづくり	3	3
C：快適で暮らしやすいまち（暑さ対策、住環境保全）	8	7
D：環境に優しく自然に優しいまち	18	8
E：活気と賑わいのある魅力的なまち	29	15
F：子供、高齢者、障がい者の誰もが暮らしやすいまち	11	8

意見区分	意見数	団体数
G：市民の健康づくり推進	6	5
H：スポーツの魅力や文化の発信	14	11
I：子育て支援の環境づくり	11	7
J：維持管理、運営、官民連携による管理	9	5
K：地域の文化、歴史の継承	4	3
L：その他	1	1

例：意見区分 E（活気と賑わいのある魅力的なまち）

意見区分	
大	中
計画範囲全般	
E-1	河川敷地内の魅力の充実
E-2	休憩拠点の充実
堤防、堤防上の道路、坂路、階段	
E-3	・堤防拡幅による体育館（建替え）や荒川公園との一体整備、賑わい空間の創出
E-4	・イベント時の雑踏事故防止に配慮した動線整備
E-5	・堤防法面の階段式護岸（観覧席）の整備
水辺、河原	
E-6	・水辺の魅力の充実
E-7	・花火大会の観覧席の充実
自由広場、ラグビー場（有料）、グランド	
E-8	・自由広場のイベント利用
高水敷全般（グランド、広場、河原）	
E-9	・高水敷地内の魅力の充実（アウトドア・バーベキュー）
E-10	・高水敷地内の魅力の充実（四季を彩る花）
E-11	・高水敷地内の魅力の充実（イベント利用の推進）
E-12	・音楽利用（練習等）



2） 地域ニーズ（市民アンケート調査）

➢ 市民アンケート調査結果概要

・期間　　：2023年11月20日～2023年11月30日
・対象　　：熊谷市内の在住者
・調査方法：Webモニターアンケート
・回答数　：400人

➢ 対象エリアの利用状況

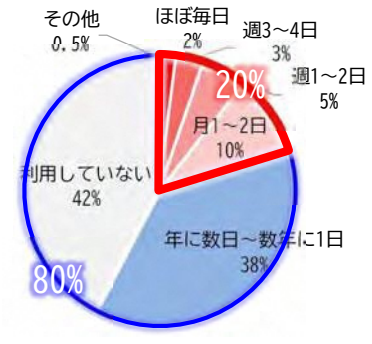
・対象エリアを**月1～2日以上利用している人が約20%**、**年に数日～数年に1日以下の人が約80%**と利用頻度が少ない。

・利用者の約50%が**堤防上の道路**を**散歩やジョギング利用**や、**お祭り・イベント利用**を目的としている。

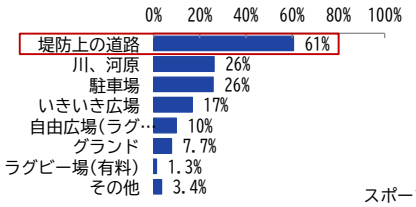
Q.回答者属性（居住地）（n=400）



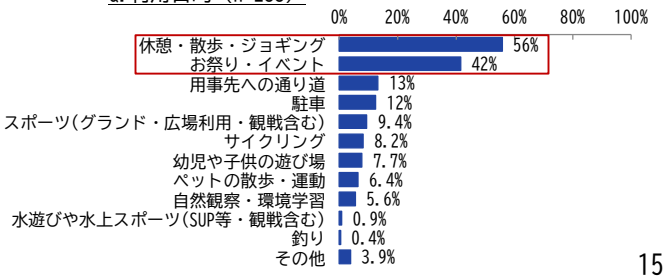
Q.対象エリアの利用頻度（n=400）



Q.対象エリア内の利用場所（n=233）



Q.利用目的（n=233）



2） 地域ニーズ（市民アンケート調査）

➢ 魅力について

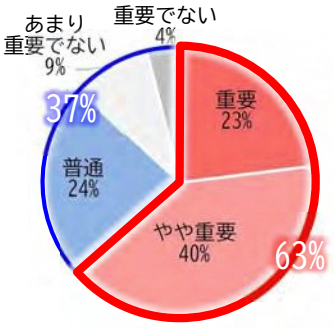
・河川空間へのニーズは、「**散歩・ジョギング・サイクリングの魅力の充実**」や「**休憩施設の充実**」、「**駐車場や坂路の整備**」のニーズが高い。

➢ かわまちづくり計画について

・対象エリアの水辺空間の活用が熊谷市の活性化に**重要と考えている人が約60%と半数以上**である。

・かわまちづくり計画に期待することとして、「**安心・安全に暮らせるまちの推進**」を1位で選ぶ人が最も多く、防災への関心が高い。第1～3位の合計の回答が多い項目として、順に「**快適で暮らしやすいまちづくり**」、「**環境に優しく自然豊かなまちづくりの推進**」が選ばれている。

Q.熊谷駅周辺の賑わい創出や魅力の向上に、荒川の水辺空間の魅力を活かす取組みは重要だと考えるか。（n=400）



Q.対象エリアの魅力の充実に向け、良くなってほしいこと（n=400）

	1位	2位	3位	合計
散歩・ジョギング・サイクリングの魅力の充実	65	65	35	165
休憩施設の充実(ベンチ、東屋など)	56	57	44	157
駐車場や坂路の整備	45	44	56	145
ゴミ対策や治安対策	47	36	34	117
夏場の暑さを和らげる親水施設の充実(せせらぎ水路・水遊び場など)	24	32	42	98
市民の憩いの場の充実(マルシェ、地域イベント、カフェ)	29	27	39	95
子供の遊び場の魅力の充実	34	22	25	81
バーベキューやキャンプの利用	26	22	27	75
自然との共生、環境学習の充実	15	26	33	74
バリアフリー環境の充実(スロープ、手すり、多機能トイレ)	19	29	20	68
スポーツ利用の魅力の充実、スポーツ文化の発信拠点	18	18	20	56
ドッグランなどペットとの触れ合いの魅力の充実	10	10	10	30
水上スポーツや釣りの魅力の充実	5	8	11	24
その他	7	4	4	15

Q. 熊谷市荒川かわまちづくり計画に期待すること（n=400）

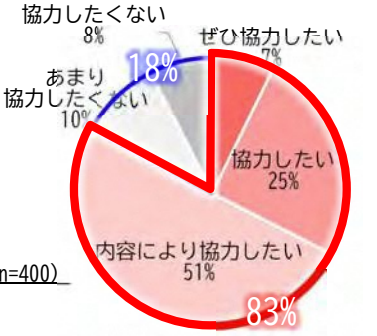
	1位	2位	3位	合計
安心・安全に暮らせるまちの推進	150	56	53	259
快適で暮らしやすいまちづくりの推進	50	73	60	183
環境に優しく自然豊かなまちづくりの推進	43	45	59	147
活気と賑わいのある魅力的なまちの推進	48	49	33	130
子供、高齢者、障がい者等の誰もが暮らしやすいまちの推進	29	65	27	121
市民の健康づくりの場の推進	23	47	35	105
スポーツの魅力や文化の発信	14	15	52	81
子育て支援の環境づくりの推進	25	25	27	77
地域の文化・歴史の継承	9	10	26	45
地域コミュニティづくりの推進	6	12	25	43
その他	3	3	3	9

16

2） 地域ニーズ（市民アンケート調査）

➢ 協力意向

・魅力ある河川空間の充実や維持のためのイベント開催や維持管理へ**約80%の市民から協力的な意向が示されている。**



Q.魅力ある河川空間の充実や維持のため、イベント開催や維持管理への協力意向（n=400）

※小数点以下四捨五入のため総計が100%とならない

➢ 自由意見

意見区分	意見数	主な意見の概要　※( )内の数値は意見数を示す
河川空間の利活用に関する意見	64	防災・治水対策(9)、自然環境の維持、創出(8)、親水・川遊び(6)、祭り・イベントの開催(4) 健康増進・散歩・ジョギング(4)、釣り(4)、アクセスの充実（動線、公共交通、渋滞改善）(4) 施設・トイレの整備(4)、駐車場の整備(3)、誰もが過ごせる・利用したいと思える場づくり(3) 子供が川遊びできる等(3)、堤防道路や河川敷地内の歩行者の安全対策(3) アウトドア・スポーツを楽しむ場(3)、ある場所の有効活用(3)、桜並木の保全維持(2) 公園樹木の保全(1)
まちづくりの方向性	13	賑わい、魅力、行きたいと思えるまちづくり(4)、自然豊かな景観を活かしたまちづくり(3) 独自性・永続性、未来を見据えた開発(2)、来訪者を呼び込むまちづくり(1) 誰もが楽しめるまちづくり(1)、誰もが安全安心なまちづくり(1)、よりよいまちづくり(1)
管理・マナー対策	9	適正な管理、増水時の対応(4)、治安維持(3)、ゴミやマナー対策(2)
計画づくりの進め方	9	市民・住民意見の反映、市民のための計画づくり(5)、市民への説明、関心(4)
河川空間の利活用への参加意向	6	参加協力したい(3)、清掃・美化運動の市民参加の環境づくり(3)
税金、予算	7	税金の使い方、有効な活用(5)、予算確保の方法(2)
その他	3	何も期待していない(1)、利用することはない(1)、大麻生方面にも力を入れてほしい(1)
合計	111	備考：289人は特になしと回答

17

3） かわまちづくりの基本方針（事務局案）

➢ 地域課題

・課題１：熊谷らしさ（地域の魅力）の充実、情報発信、まちへの愛着の醸成

地域資源を活かす（水辺の魅力、観光資源、自然環境、歴史文化）

・課題２：都市拠点の魅力・活力の充実による定住促進、多様な人の交流拡大

熊谷駅南口周辺には駐車場等の低未利用地が多く点在。
人口減少の更なる深刻化の抑制に向け、都市拠点としての必要な魅力（活力・教育・文化）、利便性（ユニバーサルデザイン）を備え、健康に暮らせるまちの環境整備の充実が必要。

・課題３：荒川の豊かな自然環境の保全と継承

地球温暖化対策（「ゼロカーボンシティくまがや」の宣言への対応、暑さ対策）
荒川の自然環境の保全と継承、自然環境保全の担い手確保
子どもたちが安全に荒川の自然環境と触れ合える空間の充実が必要

・課題４：かわ・まち・駅空間の一体的な安全・安心まちづくり（ハード・ソフト）

浸水リスク（浸水深0.85m 家屋倒壊等氾濫区域（想定最大規模））への対応。
気候変動の深刻化、高齢化や単身世帯の増加、地域コミュニティの希薄化に対応し、想定を超える災害への備えの充実、流域治水の取組推進、自助や共助の意識向上が必要。

18

3） かわまちづくりの基本方針（事務局案） 論点1

➢ 熊谷市荒川かわまちづくりの目標・方針

地域と共創、地域の安全安心への寄与のもと、荒川の豊な自然環境の保全と継承に配慮し、スポーツや健康づくり、自然との触れ合いを通じた新たな交流が生まれることによる地域の活性化、熊谷らしさやつながりが感じられる空間創出と、地域の方々の日常利用の充実により、まちへの愛着の醸成、定住促進を目指します。

➢ 熊谷市荒川かわまちづくり方針

対応方針

基本方針１ **地域と共創** 地域との共創により、地域の魅力、愛着と誇りを育むかわまちづくりを目指します。 ※課題1、2、3対応	**整備方針1-1　熊谷らしさ、つながり** ・熊谷らしさ（水辺やまちの魅力、観光資源、自然環境、歴史文化）を活かし、地域の魅力を充実する空間づくりを目指します。 ・多様な世代の人との出会いと交流を育む憩いの空間の創出を目指します。
	整備方針1-2　地域振興・健康づくり ・荒川の自然の中で、誰もが自由にスポーツや健康づくりを楽しむ空間の創出を目指します。
	整備方針1-3　自然環境・風景 ・荒川と山並みによって創り出す美しい風景を守るとともに、生物多様性の保全や温室効果ガスの吸収等に寄与する都市空間における貴重な緑地・水辺空間である荒川の豊かな自然環境を保全・継承します。 ・未来を担う子供たちが荒川の自然環境と触れ合える空間を充実し、自然環境を守り育てる担い手づくりを目指します。
基本方針２ **安全・安心** 地域の安全・安心に寄与します。 ※課題4対応	**整備方針2-1　安全・安心** ・堤防整備（嵩上げ・拡幅・側帯盛土）により、洪水時の災害リスクを減らし地域の防災力を高めます。
	整備方針2-2　水害・災害学習 ・過去の水害の歴史、災害リスクを学習し、災害を自分事化し、地域の防災・減災対策を地域と行政が一体となって考え、取り組むことを目指します。

19

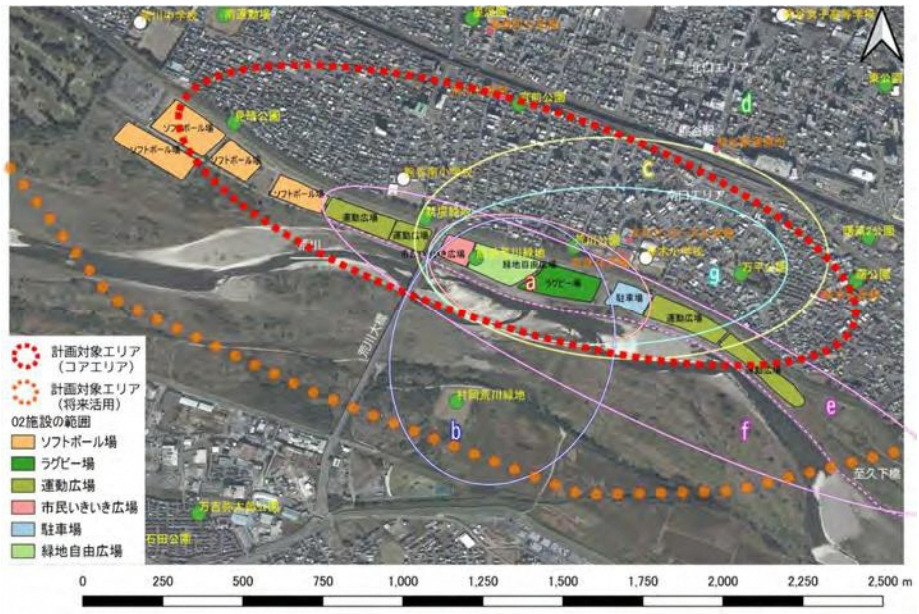
3） かわまちづくりの基本方針（事務局案）　論点２

➢ 計画対象エリア

・図中a～gは関係者ヒアリングで対象範囲に関する意見のあった場所を示しています。
・関係者へのヒアリングによる地域ニーズや実現性を踏まえ、コアエリアと将来活用範囲を設定しました。

A-2	計画範囲	・運営（荒川大橋～グランド）がやりやすい範囲と考える	a
		・対岸（右岸）エリアを含めて整備する計画としてほしい	b
		・熊谷駅南口エリアのまちづくりとの連携が必要（荒川公園、新体育館、図書館、文化会館等）	c
		・駅からかわまちまでの歩行者動線が重要	c
		・かわまち、南口エリア、北口エリアの一体化（歩行者動線）する視点が重要	d
		・富士山の見える久下橋の方までつながった遊歩道、東屋、トイレ、水道等の休憩施設があると良い	e
		・荒川大橋から久下橋までの区間を井下り等できたりすると良い	f
		・荒川敷地内から万平公園までを含む範囲へ拡大してほしい。歩行者動線が整備されていると利用しやすい。	g

（参考資料「ヒアリング結果」かわまちづくりの意見）



コアエリア
複数の意見区分が重なるエリアで、当事業の核として位置付けるエリア

将来活用エリア
複数の意見を包括した範囲で、当事業の効果が様々なかたちで期待できるエリア

20

4） 検討プロセス

➢ 「熊谷市荒川かわまちづくり」で議論すべき論点（案）

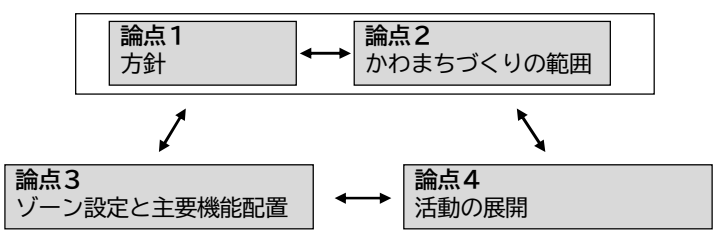
議論の場：かわまちづくり協議会、ワークショップ等

〇論点１：方針
・計画地周辺の河川環境、まち環境をもとにどのような方針を示すか。
・論点１は、論点２に相互に影響する。

〇論点２：かわまちづくりの範囲
・計画地周辺の「かわ」のもつポテンシャル、「まち」のポテンシャルを保全し、活用するために望ましいかわまちづくりの範囲をどのように設定するか。
・論点２は、論点１と相互に影響する。論点２は、論点３、論点４に影響する。

〇論点３：ゾーン設定と主要機能配置
・論点１、論点２からどのようなエリアのゾーン設定を行い、主要機能を配置するか。

〇論点４：活動の展開
・論点２の範囲で、どのようなかわまちづくりの活動を展開するか。



21

4） 検討プロセス

➢ 協議会とワークショップの検討プロセス

論点１：方針
論点２：範囲
論点３：ゾーン・主要機能配置
論点４：活動

現地視察
・地域の魅力探し
・地域課題の共有

5月中～下旬
第1回協議会
・組織の設置
・情報の共有（背景、地域ニーズ、かわまちづくり、論点案）
・今後の進め方について

8月上旬
第2回協議会
●論点１～３ 検討①
・論点４確認
・かわまち申請案 検討①

11月下旬
第3回協議会
●論点１～３ 検討②
・論点４確認
・かわまち申請案 検討②

R7.4月中旬
第4回協議会
●論点１～３決定
・論点４確認
・かわまち申請決定

【地域意見の確認の場】

7月上旬
第1回ワークショップ
●論点１～４ 検討①

8月下旬
第2回ワークショップ
・論点１～３確認
●論点４ 検討②
●社会実験 検討①（計画）

10月上旬
社会実験等実施

11月上旬
第3回ワークショップ
・かわまち申請案確認
●社会実験 検討②（評価）

パブリックコメント等の実施

かわまちづくり支援制度

参考資料

➢ かわまちづくり支援制度

ソフト施策による支援

・都市・地域再生等利用区域の指定等によるオープンカフェなど河川空間の多様な利活用の促進

・優良事例に関する情報提供や必要な調査等により、計画の実現を支援

都市・地域再生等利用区域の指定の適用事例



水面上遊歩道のイベントや舟運等での活用
（道頓堀川／大阪市）



河岸緑地へのオープンカフェの設置
（京橋川／広島市）

先進的な取組の情報提供



民間事業者のエリアマネジメントによる管理・運営（信濃川／新潟市）



河川敷広場への新たな賑わい拠点の整備
（木曽川／美濃加茂市）

ハード施策による支援

・治水上及び河川利用上の安全・安心に係る河川管理用通路や親水護岸等の施設整備を通じ、まちづくりと一体となった水辺整備を支援。
（市町村、民間事業者が河川空間の利用施設を整備）





河川管理用通路の利用
（最上川／長井市）



親水護岸の利用
（新町川／徳島市）

出典：かわまちづくりウェブサイト
https://www.mlit.go.jp/river/kankyo/main/kankyou/machizukuri/index.html

かわまちづくり参考事例

参考資料

➢ かわまちづくり　参考事例（広島県福山市　千代田地区かわまちづくり計画）

・平成30年3月26日に「千代田地区かわまちづくり」計画が登録された。
・熊谷市荒川かわまちづくり計画同様、体育館と隣接している場所であり、花火大会の会場にもなっている。





【階段護岸】



【連絡歩道橋】



【自転車歩行者用道路】



【ステップ護岸】

出典：国交省ウェブサイト　https://www.mlit.go.jp/river/kankyo/main/kankyou/tashizen/pdf/r02/1-12siryo.pdf

24

現状の利用状況

参考資料

現状の利用状況



荒川公園から河川空間への階段





リバークリーン活動



坂路













25

参考資料

熊谷市かわまちづくりワークショップ要領(案)

(目的)

ワークショップは、熊谷市かわまちづくりに対する要望・意見の収集や、当事業に対する地域の主体的な参加意欲の向上を図るための社会実験の準備及びふりかえり（評価、課題抽出）のために行政関係者の他、広く市民の意見を反映させるためにワークショップを組織し、社会実験の実施案を決定することを目的としたものである。

(対象者／組織体制)

ワークショップは、公募制にて招集した参加希望者（行政、市民、関係団体他）をもって組織する。かわまちづくりの方針や計画を決定する協議会との関係は、下図の通りであり、ワークショップでは協議会に対し意見・要望、具体のアイデア出しを行うものである。

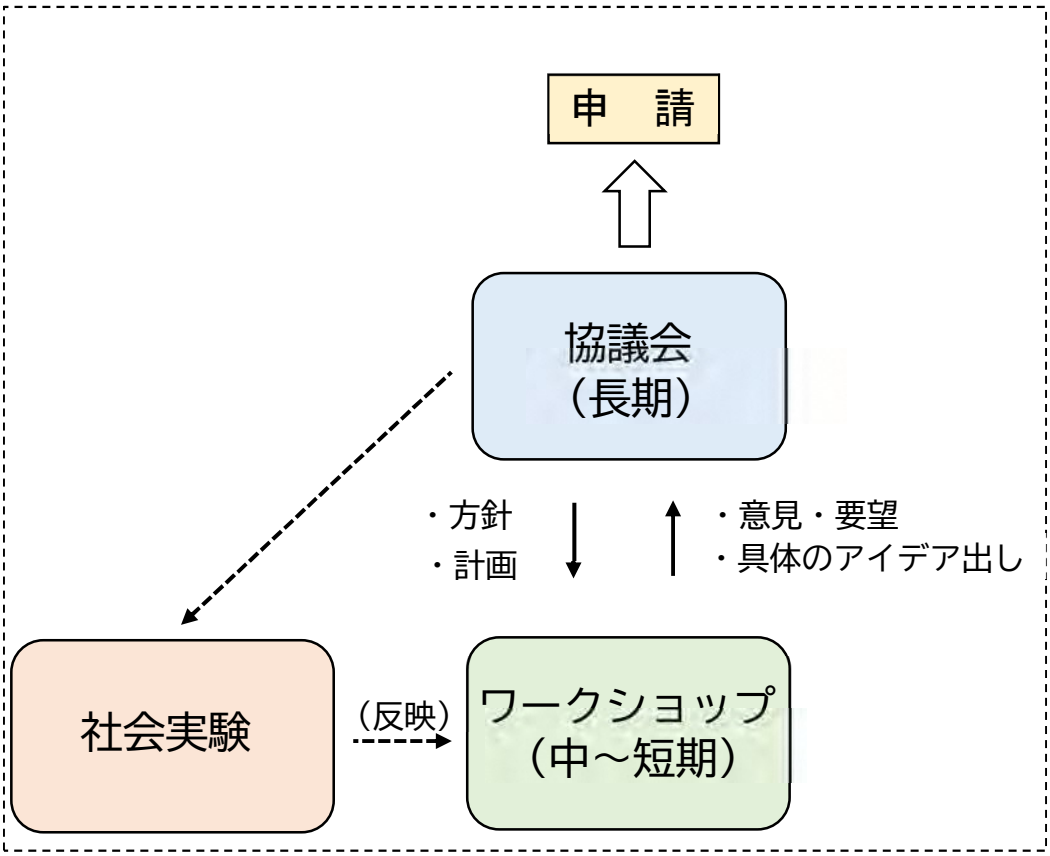


図１　ＷＳ位置づけのイメージ

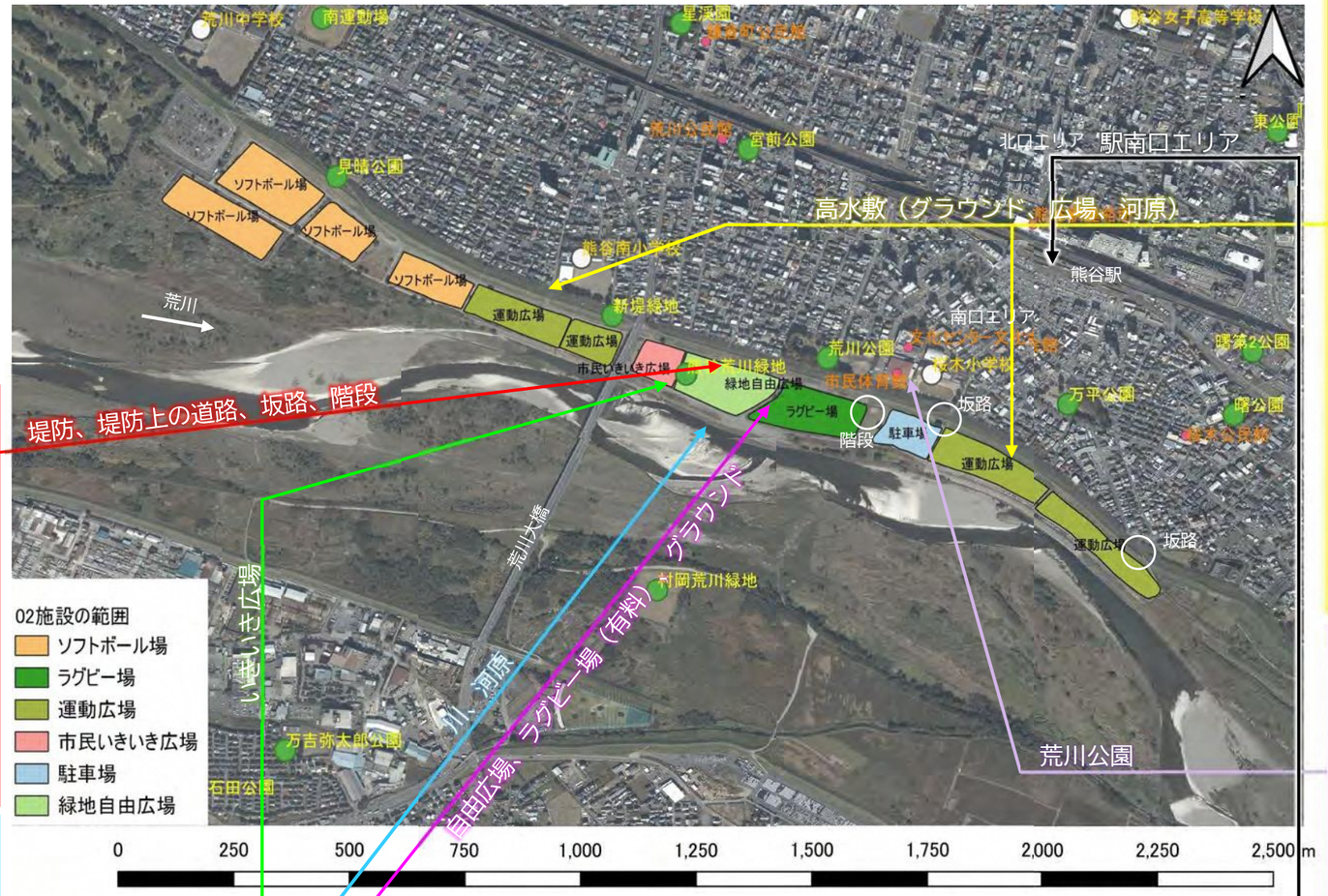
（ルール）

ワークショップはファシリテータと公募した行政、市民、関係団体他により実施する。原則、他人の意見を否定することは禁止し、幅広い意見を求めるものとする。

参考資料

熊谷市の河川空間・南口エリアの利用状況

意見区分（中）	意見概要
	計画地全般
「新川菜園村＆子ども遊びの森」の事例	・ピースふかいふるクラブの「新川菜園村＆子ども遊びの森」は、様々なイベント（キャンプ、ツリーハウス、BBQ等）が可能である。子供はピースファイブるのんが縄をはって安全区域を確保した中で子供達が遊んでいる。
地域特性（市民活動が活発）	・市民活動が活発な地域であり、子供イベント広場があれば、プログラムの検討が可能であり、市民団体の利用頻度も増える。
現在公園で開催されているイベント	・公園の紹介や行き方、公園の魅力、公園での親子遊などを知ってもらうことで、家族や友達との利用や外出につなげることを目的とし、イベントを実施している。かわまちづくりでできた空間を活動に利用できることはとても良いこと。
市内の自転車利用	・平地が多い土地柄、子連れの移動に自転車利用をしている人も多い。
江南総合公園の事例	・江南総合公園は指定管理者のグリーンアップ熊谷が全面的に協力してくれている。
学校の自然学習・社会学習	・小学1年生の生活の授業で1年に2回季節の自然、生き物探しを行っている。 ・小学3年生の社会の授業で町の変化について学ぶ。授業の内容は荒川大橋についての内容が主である。 ・小学5年生の社会の授業でハザードマップには少し触れている。
市内の移動・アクセス	・アクセスは電車やバスの公共交通機関がほとんどである。
荒川熊谷エリアの注目度	・荒川流域は環境への関心が深く、荒川熊谷エリアの注目度は高い。
ゴミ拾い	・国土交通省との活動で、熊谷大橋から久下橋間の河川敷のゴミ拾いを秋に開催しており、今年で26年目となる。現在は800人程が参加している（多い時は1500人程が参加し、子供も多く参加している）。 ・スポーツ団体のコーチが発信となってゴミ拾いを行っているため、河川敷はきれいに保たれている。野鳥の森付近でサッカーをしている団体もゴミ拾いをしており、特別広場で野球をやっているリトルシニアはグラウンド周辺もゴミ拾いをしている。
星川で実施されているイベント	・熊谷駅北側の星川の親水性を高める社会実験的な取組として、イベント（夕涼み熊谷チェアリング）を実施している。
久下の新川村跡	・久下の新川村跡で、イベントをやっていたかもしれない。
市の包括連携協定	・包括連携協定を結んでいる企業に、ボランティア清掃を協力頂いている。清掃活動の仕切りを東京電力が実施しており、JR、秩父鉄道、市内の保険会社が参画している。 ・産業振興等に関する包括連携協定では、株式会社八木橋、株式会社ハンズと協定を締結している。 ・企業からかわまちづくりへの参画のニーズは今のところ聞いていないがテーマよっては参加する可能性はある。
堤防、堤防上の道路、坂路、階段	
散歩の状況・魅力	・散歩している人は朝や夕方が多い。 ・車イスでの堤防上や河川敷利用がほとんどない ・視覚障がい者の方も堤防上の道路と河川敷を同行者と一緒に散歩する。 ・万平から久下橋の方に歩たり、荒川大橋の散歩に利用している。夢前のうつくしいを愛し、ふるこ緑地の場になっている。 ・久下橋の方に歩くと富士山が見える、荒川大橋の方に歩くと浅間山が見え、散歩の魅力となっている。 ・夏場でも夕方6時頃になると土手上に良い風が吹き、近くの人が夕涼みに利用している。 ・土手の上は見晴らしがよく気持ちが良い。 ・秩父のような売りに出せる自然はないが、暮らしと自然のバランスが良い。暮らしの中の身近な自然のイメージが荒川の魅力。 ・空がでいこと、富士山や初日の出、群馬県側の山並み等、景観性に優れるロケーションが存在している。
花火大会時の観客席	・熊谷花火大会は、他地域の花火大会に比べて花火に近い位置で観覧できることが魅力となっている。
花火大会の運営	・花火大会は市と観光協会、熊谷市商工会、商工会議所、熊谷市商店街連合会の5社共催で運営している。花火大会のメイン会場のため、堤防の法面有料観覧席整備への期待が大きい。 ・今年は自由広場の半分程度の面積に有料観覧席、荒川大橋の上流側の運動広場に有料駐車場を設けた。
花火大会の片づけ	・花火大会後に残された法面の石（シートの重石）の片づけは観光協会が主に行っている。
桜堤の植え替え	・桜は年ごとに準じ植え替えを行っており、植え替えに関して環境保全団体と聞わっていることはない。
桜堤の魅力	・熊谷市民は桜堤を大切にしており、堤防から見る一列に並んだ桜は絶景である。 ・観光資源の桜堤（日本の桜百選に選ばれた）の魅力の充実の視点が大切。 ・桜祭りは菜の花と桜を売りとしており、外国人観光客にも人気がある。
堤防の整備状況・スケジュール	・堤防の完成堤整備は、下流域から順次実施しているが、当該地区では当面実施する計画はない。 ・計画予定地の堤防は計画断面を不足しているため将来的に整備予定である。なお、緊急河川敷道路の位置付けはない。
川、河原	
保育園児の遊び場	・近くの保育園児が外遊びの場所として河川敷の広場を使用している。
親水施設の整備	・親栄河川状況では、荒川上流河川管内の本川で川辺に近づく親水施設は設けていない。
SAITAMAリバーサポーターズプロジェクトの取組み	・川の良さを見直して川を親しでもらおうとする取組として、SAITAMAリバーサポーターズプロジェクトがある。 ・SAITAMAリバーサポーターズの取組として、熊谷市の上流からSUP（サップ）による川下りが開催されており、その際の中継ポイントとして荒川大橋の下が一度利用されたことがある。
水辺のアクティビティ	・カヌーやサヤップによる川下りが実施されている。 ・荒川大橋の上流側ではつり人を見かける。 ・現在つり人はいるが昔と比べて少なくなった。 ・小学生の水切りイベント（運動広場3付近の水際）を行っていた。
遊び場として子供への注意喚起	・夏休み前等は子供だちだけで水辺に近づかないように注意喚起の呼びかけをしている。
サークル活動	・河川敷を歩くサークル
いきいき広場	
スポーツ利用	・近隣住民よりも、ラグビーやサッカー等のスポーツ利用の頻度が高い。 ・自由広場を小学生サッカークラブが利用している。
広場のトイレ状況	・2019年以降トイレが水洗式になり、子供達がとても利用しやすくなった。
ペットの利用	・犬の散歩に利用する方がとても多く、放し飼いしている飼い主もいる。 ・荒川河川敷は、ペットの散歩に訪れる人が多い。
ラジオ体操	・朝夕は犬の散歩に多く使われている。 ・6：30頃にラジオ体操をしている。アクセス方法はほとんどが徒歩で、多少車の方がいる。
消防団の防災訓練利用	・防災訓練に自由広場を、消防団の演習に荒川大橋の上流側の運動広場を利用している。
自由広場、ラグビー場（有料）、グラウンド	
ラグビー場（有料）の利用状況	・荒川緑地には有料のラグビー場と無料の自由広場があり、ラグビー利用が多い現状である。 ・有料ラグビー場は、年間を通してそこまで予約は埋まっている状況ではない。学校の対抗試合の際は平日の利用もみられる。 ・有料ラグビー場よりも自由広場の方が多く利用されており、利用用途もラグビー利用のほか、少年団のサッカーや一般のイベント利用等がある。
学校の利用状況（持久走）	・全学年参加の持久走大会で多目的広場の外周を使用している。
ゴルフ利用	・駐車場の下流側の運動広場でグランドゴルフ同好会が活動している。
広場の駐車場利用	・熊谷リリーズで荒川緑地内で花畑整備を行っている。 ・熊谷リリーズの保護者会が自分達でグランド横に車を留めるスペースを確保するため草刈りをしている。 ・駐車場の広さは問題なく、トイレもあり、設備は十分である。
イベント利用	・現在はあまり利用されていない状況である。 ・過去には川を取り上げたイベントや小学生対象の自然遊びイベント（自由広場をゴールとして利用）、チェアリング（ラグビー場の木陰）等のイベントを行っていた。
防災訓練利用	・荒川緑地の自由広場を防災訓練として利用している。



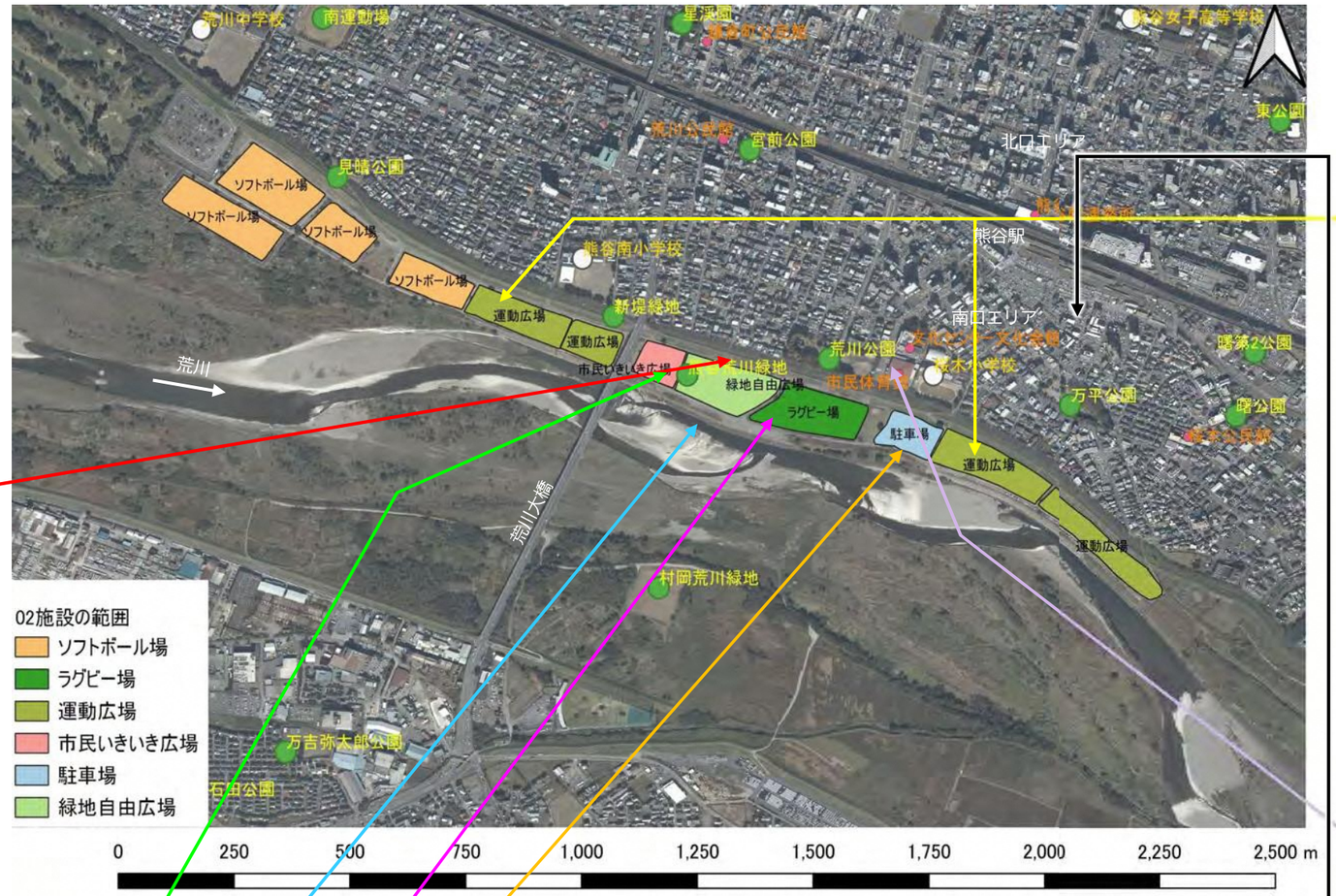
計画地周辺の主な利用状況



高水敷全般（グラウンド、広場、河原）	
ラクロスの利用	・荒川大橋の上流側の運動広場は熊谷女子高校のラクロスに使用されている。ラクロスが練習できる場所は、熊谷東小学校グランドか荒川運動広場のみである。
ソフトボールの利用	・荒川大橋上流側の運動広場では野球やソフトボールでの利用が多い。
サイクリング・ラグビー利用	・サイクリングやラグビー利用者はいるが、各々の目的のみでしか河川敷を利用しない。 ・コロナ禍で午前中や夕方にランニング利用していたときに、サイクリング利用者を多く見かけた。
ノルディック・ゴルフの講座・同好会	・サイクリング利用者や犬の散歩利用者が多い。 ・計画地の東ではノルディック講座やグランドゴルフ同好会がある。
障がい者の方のイベント	・埼玉県内の視覚障害者団体「でるでるクラブ」では月に二回イベントを行っている。
店・キッチンカーの出店（現状ではなし）	・花火大会や桜祭りでは、面積縮合が主に出ており、地域の商店街等から河川空間内に出典したいという要望は聞いていない。 ・公園のキッチンカーの出店は市からの許可が出にくい状況だったが、最近、中央公園では許可を出す頻度も出て来ている。
観光協会のイベント	・観光協会として河川敷当を利用しているのは、花火大会と桜祭りのみである。 ・観光協会として花火大会期間中に荒川敷周辺でイベントは実施していない。 ・駅からのアクセスが良い上め、桜まつりや花火大会に人が多く集まる。
高水敷の子供のイベント利用	・河川敷は子供のイベントの利用対象にしており、木遊や水の利用、駐車場の確保可能な江南総合公園やドームの公園を使用している。 ・地域イベントでは地域の中心にある万平公園を利用している。芝生や築山があり、小さい子供の参加するイベントなどで利用しやすい公園である。
花火大会の観客席	・花火大会では左岸に有料観客席を設置している。
ノルディックの利用	・自動車学校から桜木小学校まで通りノルディックをしている。道路幅の大きさ石に走って休憩している。
高水敷の流速（危険な箇所）	・台風19号の直後には流れで砕程の小さな砂が、下流側で粒径の大きなどが飛ぶ動に転がっていた。石の転がっていた付近は流速が早いと思われる。
高水敷のヘリポート利用	・荒川緑地は、緊急時にドクターヘリのヘリポートとして利用されている。 ・荒川の患者をドクターヘリで別のエリアに搬送している場合や、別のエリアから患者を周辺の病院に搬送している場合がある。
過去、白鳥の飛来	・昔は「田沼サイホン～熊谷大橋/荒川大橋」の間に「白鳥」が来ていた。
大麻生公園の管理事例	・大麻生公園のエコパークボランティアは、公園一帯の植物の遷移対策である。この火入れ対策でカワラハウが守られる。毎年全体の半分を火入れするイメージである。
市民の防災意識	・体育館は建て替えにあたり避難所機能を充実させる方針である。荒川緑地に限らず、市民の防災意識を持たれている市民は多くない。40億がある。
消防の特別点検	・11月から12月頃に荒川大橋の上流側の運動広場で消防の特別点検を実施する。
日差しを遮る広場の樹木	・広場内の樹木は、意識の日射しを遮る木陰として重要であり保全に配慮している。
花火大会時の状況	・花火大会は、川下の方で見ている。 ・施設等と各花火の観覧席を調してくれた会社があり、混雑なく観覧することができて良かった。 ・花火大会等のイベントの際は1週間ほど前から観光協会が会場を建さえ、終了後は撤収をしている。 ・花火大会時に、緊急車両は河川敷地内および荒川公園に配置している。駐車場で混雑しにくい。 ・花火大会の後のゴミ拾い等の清掃の協力参加の取組について、終了後のゴミ回収を呼びかけた。若者を中心に参加してもらえて清掃の効果があった。 ・有料観覧席の近くに設けている仮設トイレに仕車椅子用トイレを設置しているらしいが、使われているかわからない。 ・消防団の訓練や学生のロードレース、マラソン等に利用されており、市民は今までに一度は利用したことがあると思う。 ・犬の散歩（朝・夕）、散だ花る楽器の練習、縄跳びフリーフルなどに利用されており、"何もない開けている場所"というイメージを市民は持っている。
荒川公園	
障がい者の方の運動場としての利用	・障がい者の方の運動会会場は、荒川公園は砂利で転倒すると怪我の恐れがあるため、4年目から桜木小学校に変更した。 ・荒川公園でグランドゴルフをやりたいという地元の自治会がいる。 ・障害者の方々が毎年200人規模で荒川公園で運動会をやっていた。 ・障害者団体が荒川公園のグランドで月に1～2回運動をされている。 ・荒川公園は、多目的トイレがあることや、バス等のアクセス面から、障害者の方が利用しやすいグランドである。
新体育館整備の代替施設の懸念	・新体育館の整備により、荒川公園のグランドが狭くなるため、代替として荒川緑地（高水敷）の利用が見込まれる。 ・荒川児童館は公園整備と同時に荒川公園敷地外に移転する予定である。 ・整置後は移転か再整備するか、現在方針を検討中で難航決定に至っていない。
小学生のお昼ご飯利用	・文化センター利用後等で小学校の児童のお昼ご飯等に利用されることがある。
子供の自然学習利用（現時点ではなし）	・荒川公園や荒川緑地で自然学習利用はあまり聞いていない。荒川の自然学習等の利用は上流にある「野鳥の森」をまとして利用している可能性がある。 ・荒川公園にアメリカクシントンDCどのソメイヨシノとハナミズキの交流の縁がある。
荒川公園へのアクセス	・荒川公園利用時は、遠方から人が集まる、市のバスや民間のバスを手配して集まっている的、不自由の状況によって公共交通と徒歩でアクセスする人もいる。
近隣住民の荒川公園の重要性	・荒川公園の存在により居住を決めた住民もいる。
駅南口エリア	
アンダーパスの状況と市民の印象	・熊谷市役所から荒川につながる通りは、かつて南口エリアと北口エリア在一体化させることを目的に整備された。 ・鉄道のアンダーパスと合わせて中心市街地内の星川通りや、立体駐車場を整備した。市役所前の中心部から荒川までの緑の軸と星川の水の軸をつなぐことを意図している。 ・鉄道アンダーパス部の地下歩道にはオブジェを展示するショーケースを設けている。
南口エリアの整備状況	・もともと周例に商店街はなく、新幹線駅が整備された時に南口が整備された。 ・南口エリアは、開発促進エリアに位置付けているが、容積点で市の区画整理や民間の再開発事業等の計画はない。 ・民間の土地利用を促進するための支援方策として、道路の幅員や用途による高さ制限等規制の緩和等、土地利用の高度化を検討している。 ・商店街はあるが、あまり活気は活発ではない。
かわまち計画箇所の強み	・駅から近いというはかわまち計画地の強みである。
民間のまちづくり活動	・南口エリアで街なか再生に関する民間のまちづくりの活動は聞かない。
その他	
小学校の選択要素	・桜木小学校は富士見中学校で学校が遠く、熊谷南小学校区を選ぶ人もいる。
スマートシティ宣言	・7月にスマートシティ宣言を出した。
市民参画の取組	・まちづくりの市民参画の取組として、LINEベースの都市情報ポータルサイトで市民アンケート、市民意見の分析に取り組んでいる。 ・星川のまちづくりでは意見収集や合意形成に「Decidim（デシディム）」を実験的に活用することを検討している。 ・星川を含めた東西の軸、ラグビーロード、駅の南側で、LOD2の3D都市モデルを上げる作業を進めているが、納品時期が12月～1月を予定している。この業務での活用は難しい。来年度以降のまちづくりワークショップ（市内の高校等）の中で活用する予定で作成を進めている。 ・「熊谷まちなか再生エリアプラットフォーム」と「一般社団法人星川エリアマネジメント」の2つの団体が星川通りを活性化させるため活動している。 ・官民連携まちなか再生事業で指定を受けた団体であり、プラットフォーム（協議会）をつくり、3年かけて骨年「熊谷まちなか再生未来ビジョン」（未来ビジョン）を作成した。 ・星川商市（ナイトバザール）では学生が参加している。 今年度は、市（産業振興課）として星川通りのビジョンつくりのため、商団体にヒアリング、アンケートを実施している。
くまSUNフェスタ	・くまSUNフェスタはドームの公園を使用している。
江南総合公園のイベント	・江南総合公園で子供たちがフール泉り等をしている。
シャアサイクルの状況	・シェアサイクルには事社会の現状で許幕が用込めないことから、公共事業として実施していない。現在は民間がサービスを提供している。
広告効果についてバスタの事例	・バスタの例では、バスタに来られる地方の方がその情報を広げることから、出店による広告効果が高い。
荒川大橋からの眺め	・荒川大橋の下で水が流れているのを眺めると気持ちいい。

熊谷市の地域課題

計画地全般		
意見区分		意見概要
大	中	
E-1	イベントの備品	・昔は駅伝大会等のイベントが行われていたが、現在はイベントをやる備品が高水敷になく、運び入れる必要がある。
I-1	子育て世代が滞在し易い空間（公園や水辺）の充実	・荒川を活かして、子供が水辺で遊べる場所や涼める場所があるとよい。
		・自転車の利用環境の充実や遊具等のレンタルサービス等、親子が手ぶらで遊びに行けるような工夫をすると良い。
		・遊具やバーベキュー等が借りれて、車で来なくても手ぶらで身軽に来て遊べるような空間、サービスがあると、子育て世代にとって良い。
堤防、堤防上の道路、坂路、階段		
F-1	河川空間へのバリアフリーなアクセス	・河川敷地内は砂利道や段差などもあるが、現状は車いす利用者等に対応したバリアフリーな観覧席や優先席、トイレ、駐車場等を用意できていない。
		・堤防が河川敷へ行く障害になっている。特に高齢者は自転車で堤防の乗り降りが障害になる。
		・自転車で簡単に河川敷に降りられる坂路が少なく、階段横のスロープで降りる等、安全な自転車利用（子供や高齢者など）ができない状況にある。
		・桜木小学校のところにある坂路は車での出入りが少し怖い。
		・川裏側から高水敷にアクセスする際、桜木町にある川表坂路と川裏坂路を結ぶ導線が急カーブになっており、アクセスが大変である。
		・坂路が少なく堤防上や河川敷のアクセスが悪い。アスファルトなどで整備されておらず上がりにくい。
		・現状の河川敷内へのアクセス路は遠くて不便（桜木小学校前の坂路）。また坂路の勾配が急で車椅子では移動が困難。
		・荒川大橋付近の土手が立体交差になり横断が容易にできないため、計画エリアはあまり利用しなくなった。
		・駐車場利用の車両と同様の坂路を通らなければならないので危険である。
H-1	イベント時の坂路の通行	・荒川大橋より西側にはソフトボール場などたくさんのグランドがあり、毎週末大会が行われている。大会がある際には100台近くの駐車場利用があり、坂路が狭く、車相互の離合が困難な状況にある。入口とで出口を分けた坂路があると良い。車や大型バスの利用が多い。
J-1	イベント後の堤防・坂路状況	・祭り後の堤防法面には、観光客がシートの重りに使用した石が残されており、除草作業の際に邪魔になる。
		・祭り後の堤防坂路は、祭りの際の車両の走行により、路面がボロボロになっている。
J-2	堤防整備（嵩上げ・拡幅）の支障物	・堤防裏の道路に帝石パイプライン（新潟～東京）があり、パイプライン上は盛土ができない。
		・洪水時には、堤防-50cm程まで水位が上昇（令和元年台風）していたことがあり危険である。
J-3	桜の枝の管理	・堤防天端には桜の枝が落ちており、落ちてきた枝による歩行者の怪我が懸念される。
		・近年は桜と菜の花を一緒に見ることができるが、菜の花は堤防管理上は撤去すべきであるため注意が必要である。
		・カミキリムシにより桜の維持が大変である。
川、河原		
F-2	安全に利用できる親水空間・施設の不足・喪失	・昔に比べ高水敷と河床の高低差が大きく水辺に近づきにくくなっている。また、石も少なくなっており水切り等の遊びも難しい。
		・川はあるが、市民はあまり川に行かず、釣人が数名大橋の下に行っているくらいである。
		・浅瀬など、体の不自由な人や子供達等が安全に水辺に親しめる場所になっていない。釣りも安全にできない。
		・水量が多くなく、護岸も水に近寄れるような状況でないので安全性の観点から水辺のアクティビティのイベント利用は難しい。
駐車場		
C-1	河川空間に近い駐車場の不足	・市民や近隣向けイベント時の駐車場確保が重要であり、計画地は駐車場が少ない。
		・開花期間内で来場者が分散するが、満開時期と土日が重なると、混雑が発生している。車で来られる方用に多目的広場（砂利）を臨時駐車場として使用しており、土日はほぼ満車となる。
		・高水敷河岸には、一般車両が駐車されていることがある。
いきいき広場		
G-1	いきいき広場のアクセス	・いきいき広場は木陰はあるが、アクセスが不便で利用しづらい。
自由広場、ラグビー場（有料）、グラウンド		
G-2	ペット利用とスポーツ利用の共存	・自由広場を利用する方には、犬の放し飼いによる危険やし尿等、犬の利用に嫌悪感を頂いている方もいる（地域利用とスポーツ利用の共存が課題）。
H-2	グラウンドへのペットの進入	・スポーツグラウンドのその他の活用との両立は難しい。現在も勝手に入り込んだ方のペットのふんなどがグラウンド内に、スポーツ利用ができなくなる
H-3	グラウンドの利用団体の集中	・スポーツグラウンドは、実質、1団体で1グラウンドを占用している状態になっている。その分、既得権を持っている団体のスペースをなくすのは難しい。



凡例　意見区分

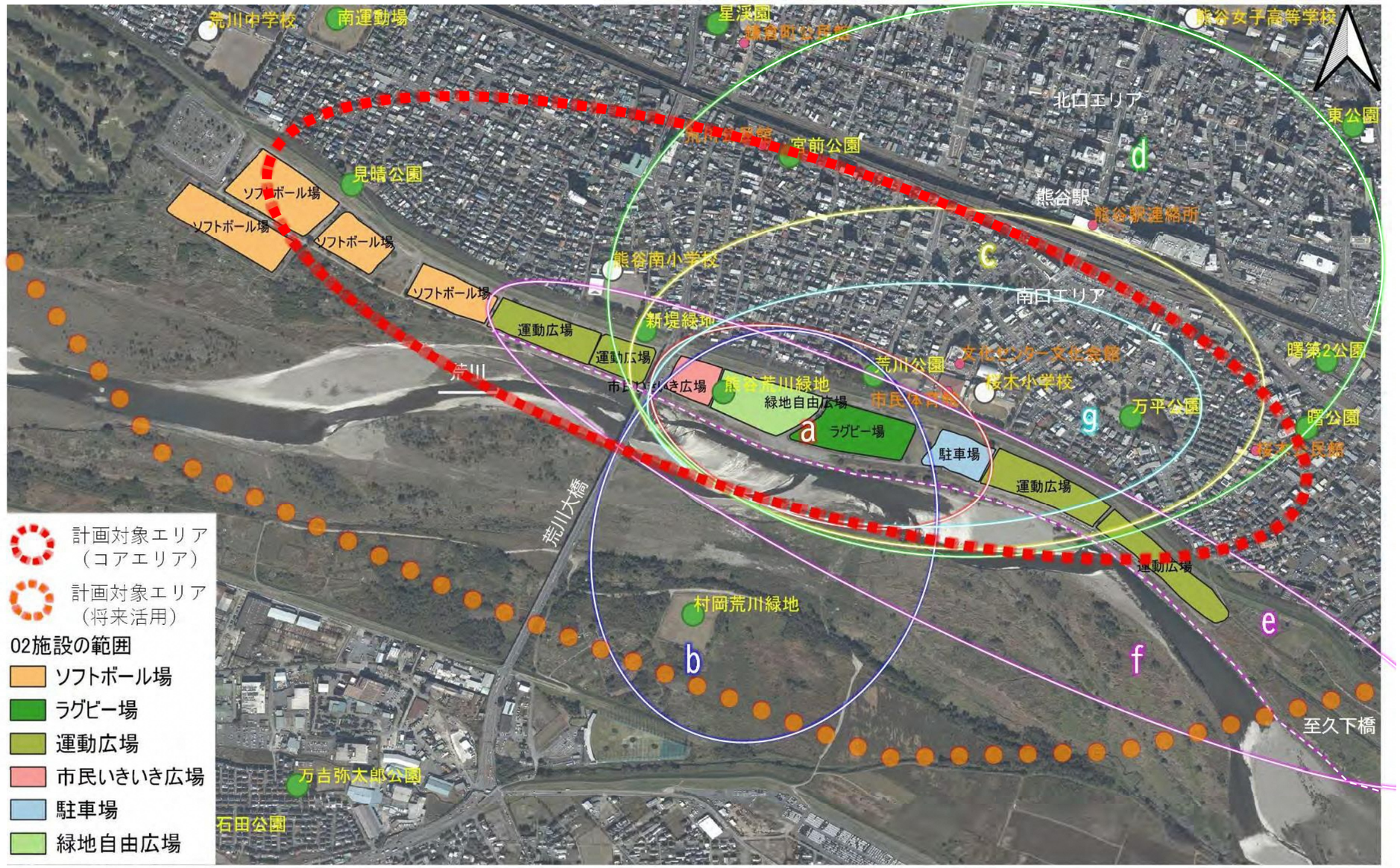
A：かわまちづくり計画の考え方等	意見数2	団体数2
B：安全、安心に暮らせるまちづくり	意見数0	団体数0
C：快適で暮らしやすいまち（暑さ対策、住境保全）	意見数9	団体数6
D：環境に優しく自然に優しいまち	意見数3	団体数3
E：活気と賑わいのある魅力的なまち	意見数14	団体数7
F：子供、高齢者、障がい者の誰もが暮らしやすいまち	意見数20	団体数8
G：市民の健康づくり推進	意見数3	団体数3
H：スポーツの魅力や文化の発信	意見数3	団体数2
I：子育て支援の環境づくり	意見数3	団体数2
J：維持管理、運営、官民連携による管理	意見数5	団体数3
K：地域の文化、歴史の継承	意見数0	団体数0
L：その他	意見数1	団体数1

高水敷全般（グラウンド、広場、河原）		
意見区分		意見概要
大	中	
A-1	高水敷に設ける親水空間（小水路、池）	・親水空間の整備は、高水敷がグラウンド利用されており、かつ周辺に支川や水路が無いことから構造的に難しい可能性がある。
A-2	かわまち利用と高水敷のグラウンド利用者との共存	・このエリアの利用特性として、場所場所で利用団体が限定しており、駐車場利用など追加によって、現状の利用に制約が出る場合はその団体から意見が出る。一方で現状の利用者だけの意見を聞いていると新しい活用等は難しい。
C-2	夜間の騒音	・夏場は毎日花火で夜中まで遊んでいる人がいるため困っている。
C-3	高水敷の日除け、水場等の不足（暑さ対策）	・夏場などは暑い時期は休憩場所や木陰がないと計画予定地周辺に人は行かないと思う。
		・河川敷は木陰がなく日影が確保できないことや、電源、水場や水の使用の可否、近くに駐車場がないことが挙げられるため、子供のイベントの利用対象にしていない。
		・夏場の日中は外に出ることが出来ない。日差しを避けることが可能な場所や水遊びが可能な遊具等は子育てをしている人に対して需要がある。 ・現在も樹木のある場所には人が集まっている
		・夏場などは暑い時期に地震が発生した際の荒川緑地を避難空間として利用する際の暑さ対策等が心配。
D-1	河岸に捨てられるゴミ	・河岸の樹木が繁茂している範囲は死角となり、よくゴミが捨てられている。
		・釣り利用者は環境に悪影響となるゴミを置いていくことが多い。
D-2	高水敷の自然環境の不足・減少	・河川管理者(国土交通省)とゾーニングを設定しており、当計画箇所は「河川敷エコ利用ゾーン」として、自然環境20%を維持する計画となっていた。 但し、現状守られているとは思えない。設定はかなり前なので、河川管理者も把握していないかもしれない。
		・昔より自然が減っており子供に自然環境を学習させることができない。
E-2	禁止されているBBQの実施とゴミのポイ捨て	・たまに水辺で、禁止されているバーベキューや川に入っている人を見かける。
		・禁止されているが、高水敷の橋梁下でBBQを行っている人が居る。
		・荒川大橋の下では、禁止されているバーベキューを行っている人が大勢おり、近隣の方から苦情が出ている。
		・公園内は条例上火器厳禁のため、市の公園ではバーベキューは禁止している。ただし、特に市が認めた場所として、桜リバーサイドの1箇所ではバーベキューの実施が可能となっている。地域住民からは騒音やゴミ等の苦情が出ている等、反対意見も存在する。
		・バーベキュー利用について、現状ルールが明確でなく、ゴミや使ったものを置いていく人がいて困っている。バーベキュー禁止の看板を立てても壊されている状況。
		・BBQは禁止されているはずだが勝手に行っている人がおり、SNS等では「禁止されているがBBQが出来る場所」等と紹介されてしまっている。
F-3	障がい者・高齢者の高水敷利用	・河川敷に車いすトイレがない。
		・芝生を車いすで走るのは難しい。まず芝生のエリアに入ることが可能であるかがわからない。
		・現状は体の不自由な人はあまり利用していない。
		・体の不自由な方や高齢者は高水敷に行きづらい他、利用目的がないため利用しないといった課題がある。
		・スポーツ利用が強く、スポーツする人が優先されるイメージがある。
E-6	キッチンカーの出店	・熊谷桜まつり期間中や花火大会は露天商が出店されるため、キッチンカー等の食べ物を扱う出店は競合することから理解が得られない。キッチンカー協会の問い合わせは来る。
J-4	イベント時の緊急車両の走行	・イベント時に河川敷地内に入ると、人混みで出れなくなり、消防の緊急車両がアクセスできない問題がある。
L-1	高水敷の音楽利用	・コーラスの練習に利用しようとしたが、市に問い合わせた結果、ダメだといわれて河川敷地を利用できなかった。
荒川公園		
F-4	高水敷に代替施設を設けた場合のアクセスの困難	・荒川公園は障がい者の方達が利用し易い環境であり、高水敷に代替施設を設けた場合、アクセスが困難になることが懸念される。
G-3	スポーツ（グラウンドゴルフ）利用可能な場所の減少	・荒川公園の再整備で体育館ができることによって、公園のグランドが狭くなり、グランドゴルフ等の運動に使用できなくなる。
駅南口エリア		
E-3	花火大会時の渋滞	・花火大会の際は、熊谷駅から体育館前の道を通り、階段を上り、川にアクセスするルートが一番混み合う状況となっている。
E-4	北口エリアから南口・河川へ繋がるアンダーパスの治安	・アンダーパス部は治安の問題があり、歩行者はどちらかというと熊谷駅にある自由通路を主として利用している。
		・かわとまちをつなげる動線の魅力の充実、かわに向かうイメージを抱けるような道の景観づくりも重要。アンダーパスは休くて使用しづらい。
E-5	南口エリアの整備状況	・昭和30年代の住宅地整備や道路整備により市街地が概成した地域。その後に新幹線停車駅となったことから、南口エリア（体育館等公共施設周辺）の用途地域は住居専用地域のままで土地利用の高度化が遅れてしまった。また、駅前広場周辺は駐車場利用など低未利用地が多い状況となっている。
		・南口エリアの土地利用の目指すところとして、地元（住環境）と市（高度利用）との認識の違いが生じていることや、本来の適切な土地利用がなされるべき駅前広場周辺の土地が、現在は駐車場利用など低未利用地が多い状況となっていることが挙げられる。
		・現状の土地利用が十分に進んでいない要因の一つとして、駅舎が準工業地域に指定されており、その日影規制により商業用途の建物が建てられないことが挙げられる。
		・熊谷駅周辺にコンビニが少ない。 ・熊谷の特産物等に特別感や熊谷市ならではの魅力が充分でない。 ・キングアンバサダーホテルができたときは成長が右肩上がりで将来に明るい見通しを持てたが、今は人口減少など、市民が熊谷市の未来が明るくないと感じてしまっている人が多いように感じる。
F-5	車椅子の駅利用	・駅ホームへの車椅子のアクセスが悪い（エレベーターの位置がわかりにくい）
その他		
C-4	河川内の迷惑行為	・荒川の河川敷地でのバーベキュー利用などの禁止行為や迷惑行為等を自主点検している人がいる。写真やポスターがトイレ等に貼られていることがある。
D-3	情報発信不足	・野鳥の森など、水辺の魅力を知らない市民が多い（市民への川の資源の魅力の発信不足）。
		・若い人はスマホ等の影響で外出しない傾向にあり、イベントへの参加はあまりしない傾向にある。 ・イベントを実施する際は新聞や市報にのせているが、若い参加者は集まらない。

熊谷市「かわまちづくり」の意見

計画範囲全般			
意見区分		意見概要	平面図上の該当箇所
大	中		
A-1	計画の考え方、検討の視点	・市全体の一体性を持たせた計画、関連事業との連携が重要	-
		・熊谷の荒川ならではの魅力の創出が重要	-
		・当事者目線、利用者目線の計画づくりが必要	-
		・都市計画上の土地利用制限等に注意が必要	-
		・まちへの効果の波及を考える必要がある	-
		・地域活性化と住環境の保全の両立が必要	-
		・観光の視点からは、都市的な空間より自然や風景を活かした空間づくりが重要。	-
		・荒川緑地はイベント開催時の手続きが容易で利用しやすいが、かわまちづくり計画によって利用制限が厳しくなるのは困る。	-
A-2	計画範囲	・現況（荒川大橋～グランド）がやりやすい範囲と考える	a
		・対岸（右岸）エリアを含めて整備する計画としてほしい	b
		・熊谷駅南口エリアのまちづくりとの連携が必要（荒川公園、新体育館、図書館、文化会館等）	c
		・駅からかわまちまでの歩行者動線が重要	c
		・かわまち、南口エリア、北口エリアの一体化（歩行者動線）する視点が重要	d
		・富士山の見える久下橋の方までつながった遊歩道、築堤、トイレ、水道等の休憩施設があると良い。	e
		・荒川大橋から久下橋までの区間を舟下り等できたりすると良い	f
		・河川敷地内から万平公園までを含む範囲へ拡大してほしい。歩行者動線が整備されていると利用しやすい。	g
A-3	計画づくりの進め方	・段階的な整備、試行改善の繰り返しによる充実していく進め方が良いのは。	-
		・計画づくりへの市民参加促進、市民意見の把握の充実が必要	-
		・かわまちの取組の情報周知・広報の工夫が必要	-
		・パブコメのようなやり方だと、賛成意見の拾い上げが難しい。反対意見のみ出てくることが問題。	-
		・デジタル技術を活用して、市民意見分析の客観性向上、前向きなコミュニケーションの進め方を考えていく必要がある。	-
		・「居心地のいい河川空間」が整備されたとしても、イベント等がなければ人は他の施設に流れてしまう。	-
		・出店する場合の提供（桜並木下の道路、駅北口前のロ、グラウンド等）の検討が必要。観光客の方としては、桜に近い方の選択を希望される。	-
B-1	防災教育の充実（水災害の自分事化）	・河川の危険性を理解する場として活用できると良い	-
		・市民体育館＋荒川公園で防災イベントを実施できると良い。	-
		・防災イベントについて、市民体育館＋荒川緑地での開催は可能だが、荒川緑地に行くために土手を超える必要があり、ベビーカーの方の移動の負担が心配。 ・市民体育館＋荒川公園の場合全体を見渡せるためイベント管理しやすいが、荒川緑地は堤防があり見渡せないことからイベント管理がしづらい。	
B-2	防災機能の充実	・荒川公園、体育館（建て替え）と荒川緑地の防災拠点連携の視点は重要	-
C-1	暑さに配慮した計画づくり	・熱を吸収しない構造物整備による暑さが増すことへの懸念	-
C-2	住環境の保全と賑わい創出の両立の視点	・騒音や交通量増加への懸念	-
		・住環境の保全と賑わい創出の両立のあり方が重要	-
D-1	水辺および高水敷の自然環境の保全、活用	・学童の自然学習・体験の場の保全	-
		・荒川の水辺の自然を活かした学校連携の可能性（国の水生生物調査、水辺の楽校）	-
		・協議会を通して河川管理者（国）とゾーニングを設定しており、当計画箇所は「河川敷エコ利用ゾーン」であり、自然環境が20%維持する計画となっていた。但し、現状守られているとは思えない。	-
		・希少種の有無に関わらず、生物が生息できる空間を残すことに対し慎重に検討して頂きたい。	-
D-2	眺望、風景との調和、保全	・構造物等の計画において、荒川や山並みへの眺望やランドスケープとの調和が重要	-
D-3	水辺に親しむ空間づくり	・現状は川に親しめる空間となっていないことが問題	-
E-1	河川敷地内の魅力の充実	・河川敷内に魅力的な施設を設置してほしい（動物との触れ合い、乗馬、街なかのオアシス、若い人を惹きつける魅力）	-
		・魅力的なロケーションや河川の危険性を市民に発信すると良い。 ・荒川の旧貴族を発売すると良い。	-
E-2	休憩拠点の充実	・遠方から人が集まる休憩拠点の充実が重要（かわまちや熊谷の地域の魅力の情報発信のメリットがある）	-
F-1	ユニバーサルデザインの空間づくり	・体が不自由な方や高齢者のアクセス利便の向上、楽しむ施設の充実が必要	-
G-1	ペットとの触れ合いの魅力の充実	・河川敷にドッグランがあると良い	-
G-2	新スポーツ・文化・健康拠点機能の充実	・サイクリストの休憩拠点の整備が必要（荒川サイクリングロード、秩父鉄道サイクルトレインとの連携） ・自転車関連イベントの誘致による集客	-
H-1	ラグビーのスポーツ文化を活かした計画づくり	・熊谷のラグビーのスポーツ文化を活かした計画づくりが重要	-
H-2	スポーツ利用施設の充実	・スケートボード、フットサル、テニスコートの整備	-
H-3	ユニバーサルデザインのスポーツ環境づくり	・体の不自由な人等がボッチャなどのスポーツができる環境づくり、指導者の育成が必要	-
I-1	子育て世代が滞在しやすい空間（公園や水辺）の充実	・水辺を活かし、子育て世代が使える公園（水辺で遊ぶ、水の音が聞こえる、暑さをしのげる木陰等）、自然遊びができる空間になると良い。	-
J-1	河川空間の管理への官民連携、市民参画の推進の視点	・スポーツイベントやプロスポーツ観戦需要を活かし、河川空間の官民連携を推進すると良い。	-
		・河川空間の維持管理への市民参加を促す取組となると良い ・イベント企画は、既存の地域団体の活動と連携すると良い	-
J-2	台風襲来時や出水後の対応（方法、体制）	・台風襲来時の来塵・掃・トイレの移動の対応方法、体制を決める必要がある	-
		・出水後の河川敷の流木撤去等の復旧の体制の検討が必要	-
J-3	イベント利用時の支援の仕組み	・努力がかかる部分を支援してもらえる仕組みが必要	-
L-1	かわまち応援意見	・かわまちづくり計画はわくわくしてとても良い。	-

注）赤字：留意事項、懸念点

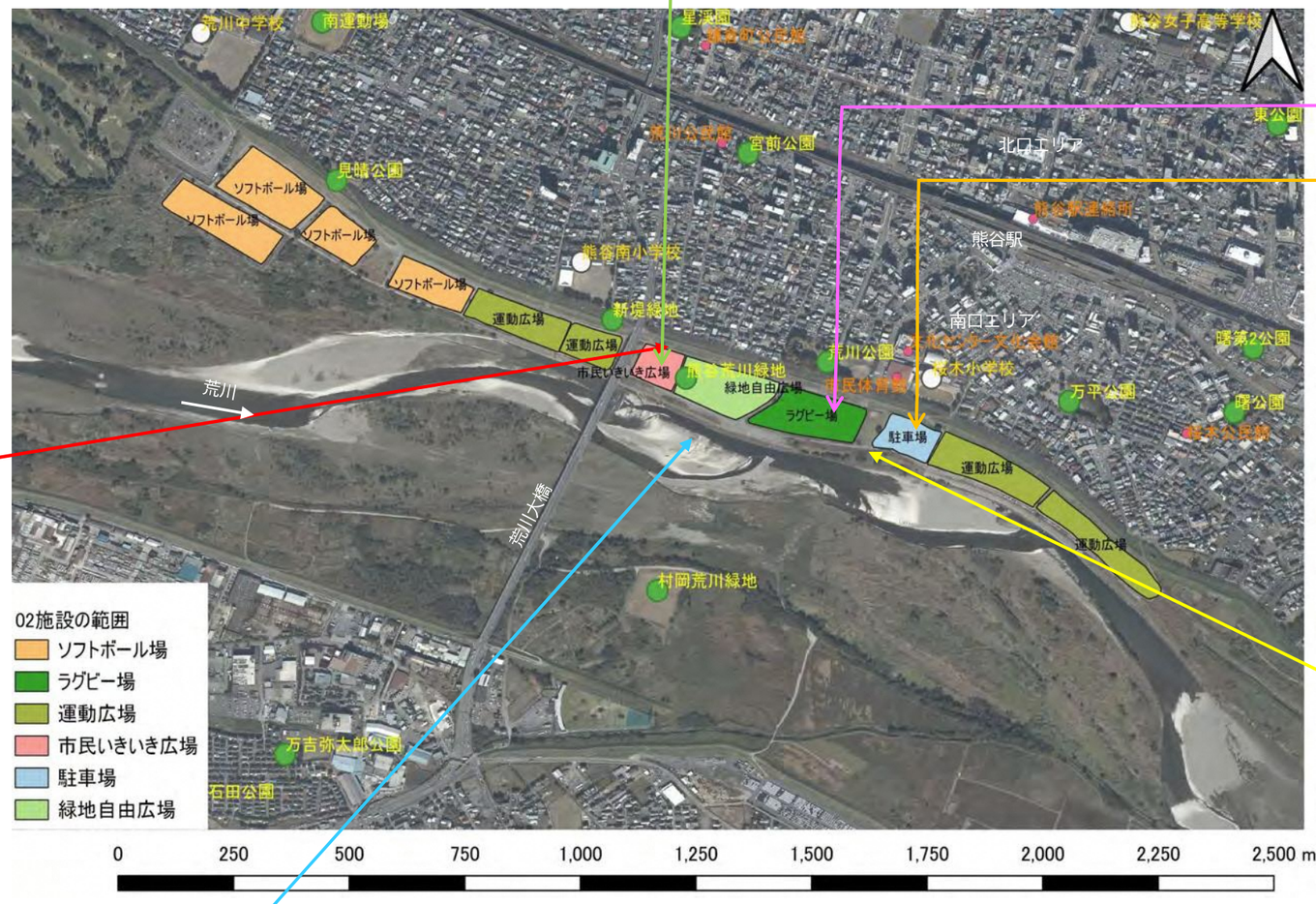


凡例　意見区分

A：かわまちづくり計画の考え方等	意見数22 団体数11	G：市民の健康づくり推進	意見数6 団体数5
B：安全、安心に暮らせるまちづくり	意見数3 団体数3	H：スポーツの魅力や文化の発信	意見数14 団体数11
C：快適で暮らしやすいまち（暑さ対策、住境保全）	意見数8 団体数7	I：子育て支援の環境づくり	意見数11 団体数7
D：環境に優しく自然に優しいまち	意見数18 団体数8	J：維持管理、運営、官民連携による管理	意見数9 団体数5
E：活気と賑わいのある魅力的なまち	意見数29 団体数15	K：地域の文化、歴史の継承	意見数4 団体数3
F：子供、高齢者、障がい者の誰もが暮らしやすいまち	意見数11 団体数8	L：その他	意見数1 団体数1

熊谷市「かわまちづくり」の意見

堤防、堤防上の道路、坂路、階段		
意見区分		意見概要
大	中	
C-3	・高水敷へのアクセスの安全性向上	・高水敷へバスで安全に移動するための坂路の改修が必要
C-4	・イベント時のゴミ、騒音、路上駐車の問題	・かわまちづくりにより、イベント時のゴミや騒音、路上駐車の問題が解消できると良い
D-4	・自然学習、体験の場の保全や充実、学校連携の視点	・学童の自然学習利用のため、自然を残してほしい
D-5	・荒川および高水敷の自然環境の保全	・現状の土堤をコンクリート製の階段護岸等の整備を実施する場合は、地域の環境団体等への説明及び代替措置の検討が必要
		・現在の自然を残した整備にしてほしい。
		・環境保全上は、階段護岸は避け草地が望ましい。 ・堤防拡幅時には既設堤の在来野草を盛土表面に移植する等、環境に配慮が必要
E-3	・堤防拡幅による体育館（建替え）や荒川公園との一体整備、賑わい空間の創出	・土手に安全できれいなトイレのある飲食店が整備されると良い
		・堤防を拡幅して体育館とつながると良い
		・荒川公園から河川敷まで連続した賑わいを創りたい
		・堤防上または新体育館に体が不自由な人に配慮した観覧席やVIP用の観覧席が整備されると良い
		・堤内地側の盛土整備による道路への影響や法崩れによる住宅への影響が心配
E-4	・イベント時の雑踏事故防止に配慮した動線整備	・イベント時の雑踏事故防止に配慮した動線計画、堤防道路や階段の拡幅整備が必要
E-5	・堤防法面の階段式護岸（観覧席）の整備	・階段式護岸になると花火が見やすくなり良い。川側だけでなくまち側にも階段を設けないと事故の危険等が懸念される。 ・階段式護岸は完成堤防での整備が必要
F-2	・子供、高齢者、障がい者の誰もが利用しやすい移動環境の充実	・高齢者の方々が安心して歩ける道路、階段（手すり付き）、スロープを設置してほしい。 ・バリアフリーに対応したスロープがあると車椅子でアクセスがしやすくなる。 ・現状の河川敷内への坂路は遠く、坂路の勾配が急で、車椅子では移動が困難。 ・スロープは、目的地に遠回りとならないような位置に配置が必要（高齢者利用、車椅子利用、ベビーカー利用等） ・堤防から水辺までの連続したアクセスしやすさを考える必要がある。 ・遠方からの来訪者のための駐車場へのアクセス路の整備やトイレがあると利用しやすい。
F-3	・堤防上道路の交通安全対策（自転車対歩行者）	・堤防上の道路の自転車（スポーツバイク）と歩行者の通行空間の分離等の歩行者の安全対策が必要。
F-4	・体が不自由な人に配慮した花火等の観覧環境の充実	・堤防上または新体育館に体が不自由な人に配慮した観覧席やVIP用の観覧席が整備されると良い。
G-3	・散歩コースとしての魅力の発信、市民利用の促進	・散歩コースとしてとても魅力があるコースであり、その魅力を知ってもらい、利用してもらいたい。
G-4	・ランニングコースの魅力の充実	・ランニングコース（堤防道路、高水敷）に街灯等の夜間利用の防犯対策が必要
H-4	・新スポーツ・文化・健康の連携軸の魅力の充実（サイクリングロード）	・熊谷市は自転車が乗り易い平坦地で、荒川の上下流の隣接市と連携を図る上で自転車は有効な要素と考える。
		・自転車が安全に利用できる緩勾配の坂路があると良い
		・サイクリングロードなどの自転車利用環境等を検討するにあたっては歩行者との安全対策に留意する必要がある。
		・サイクリングやスポーツ利用の人をまちに呼び込むことはとても難しい。
		・案内看板などに東京までの距離を記載する等、工夫があると良い。
H-5	・新スポーツ・文化・健康拠点機能の充実	・階段式護岸はスポーツ観戦できて良い
K-1	・熊谷桜堤の保全、継承	・熊谷桜堤は桜百選に指定されており、最新技術を駆使し必ず残してほしい。
		・桜並木は熊谷の大切な財産であり、（その保全）に配慮した計画づくりとしてほしい。
		・堤防天端に施設を設ける等した場合、桜堤の景観が損なわれるため、桜堤に影響するような整備は反対である。 ・桜並木の保全と堤防拡幅や階段敷護岸の工事の両立を考える必要がある。
		・斜面に植えている菜の花がコロナ禍で斜面に広がり、花見をする場所を確保しづらい状況となっているため、場所を確保できるようにしてほしい。
J-4	・堤防及び坂路の維持管理	・かわまちづくり事業地内は市の占用範囲とし、一括で維持管理してほしい。
J-5	・坂路の改修（防護柵の設置）	・川表側に防護柵を設ける場合は、着脱式等の洪水時の対応が可能な構造とする必要がある。
J-6	・堤防道路の改修	・堤防道路を遮熱性舗装にしてほしい。 ・天端の舗装は生物の移動の妨げになるため、野鳥の森区間では舗装を実施しない様に要望している。
水辺、河原		
D-6	・川と親しめる親水空間の魅力の充実と水辺の安全対策	・河原沿いを歩ける転落防止にも配慮した遊歩道があると良い
		・親水施設整備の検討にあたり、荒川の河川特性（水辺の安全性）を踏まえる必要、利用者の十分な安全対策が重要である
D-7	・自然学習、体験の場の保全や充実、学校連携の視点	・河原の石に関する自然学習で埼玉県立博物館との連携がとれるのではないか。
D-8	・水辺の自然環境の保全、活用	・面的な整備等をするにあたっては、自然環境保全団体の意見を踏まえ、自然環境保全に配慮する必要
		・水際の樹木の保全が必要（上下流の環境の連続性から重要な位置づけであり、軽視しないでほしい）。 ・旗河原の保全が重要（「明戸サイホン～久下橋」はコアジサシの生息域として最も適した場所であり、旗河原を守ってほしいという要望を30年以上前に発信している。）
E-6	・水辺の魅力の充実	・夏に涼める水辺空間や、釣りなどを楽しむ場所にする等、夏も冬（体が不自由な人を含め）市民が集まる場所になると良い
E-7	・花火大会の観覧席の充実	・有料ラグビー場前の河畔に生える樹林を伐採し、花火への見通しを確保したい。
I-2	・子供の川遊びができる環境の充実	・暑い夏場の子供が川で水遊びできる環境、魚を捕まえる等の自然との触れ合いが出来る環境を整備して欲しい。
		・子供を安心して遊ばせられるような対策を行ってほしい。
J-7	・荒川の維持管理上の課題	・流量観測地点の見通し線の確保



凡例　意見区分

A：かわまちづくり計画の考え方等	意見数22	団体数11
B：安全、安心に暮らせるまちづくり	意見数3	団体数3
C：快適で暮らしやすいまち（暑さ対策、住境保全）	意見数8	団体数7
D：環境に優しく自然に優しいまち	意見数18	団体数8
E：活気と賑わいのある魅力的なまち	意見数29	団体数15
F：子供、高齢者、障がい者の誰もが暮らしやすいまち	意見数11	団体数8
G：市民の健康づくり推進	意見数6	団体数5
H：スポーツの魅力や文化の発信	意見数14	団体数11
I：子育て支援の環境づくり	意見数11	団体数7
J：維持管理、運営、官民連携による管理	意見数9	団体数5
K：地域の文化、歴史の継承	意見数4	団体数3
L：その他	意見数1	団体数1

駐車場		
意見区分		意見概要
大	中	
H-6	・高水敷地内の駐車機能の充実	・河川敷地の駐車場の駐車容量の拡充 ・駐車場整備による夏場の暑さが増すことへの懸念
いきいき広場		
C-5	・夏場の暑さ対策への配慮	・河川敷地内の高木の木陰を活かした涼める場所を作ったらどうか。
自由広場、ラグビー場（有料）、グランド		
E-8	・自由広場のイベント利用	・スポーツ以外を含め、イベント需要を把握し、必要な設備を考慮する必要がある。
H-7	・ラグビー場の一般利用の拡大	・歴史あるラグビー場であり、ラグビー協会からどちらも残してほしいと要望があった。
		・ラグビー場（有料）は、ラグビー場としての価値を保つ観点から一般利用は難しい。 ・無料の自由広場については可能性として考えられる。
		・ラグビー場のあり方は、荒川堤防の将来計画を踏まえる必要がある
高水敷全般（グランド、広場、河原）		
G-5	・散歩コースとしての魅力の充実	・富士山の見える久下橋の方までつながった遊歩道、東屋、トイレ、水道等の休憩施設があると良い。
E-9	・高水敷地内の魅力の充実（アウトドア・バーベキュー）	・手軽なアウトドアが楽しめる施設があると良い ・有料バーベキュー場ができると市民に喜ばれると思う。 ・バーベキューのニーズは非常に大きく、問い合わせも多い。 ・近隣の方が納得できるルールに準じたバーベキュー利用ができると良い。 ・バーベキュー場や花火ができる場所があると良い。しかし、制限が厳しいと利用しずらいため、エリアとして利用可能範囲を区画すると良いと思う。 ・バーベキューを可能とする場合には施設管理者及び消防関係者によるルール決めが必要である。 ・バーベキューを許可するのであれば、騒音やゴミのポイ捨てが懸念されるため、BBQのルール決めを行い、行政で管理する必要がある。 ・バーベキュー場の設置はゴミの問題が懸念される。過去にコアジサシの巣が破壊されることもあった。 ・簡単に車が入れると環境破壊につながる恐れがある。
		・まちおこしを目指し、人が集まる場所にするためには、若者が気軽に立ち寄れる場所や、行きたいなと思うランドマークなどがあると良い（荒川を望むオープンカフェ等）
E-10	・高水敷地内の魅力の充実（四季を彩る花）	・桜の季節以外に咲く花を植えたらどうか
E-11	・高水敷地内の魅力の充実（イベント利用の推進）	・イベント利用のニーズはあり、地域団体、企業と連携が見込まれる。
		・人が集まるイベントであれば、キッチンカー出店のニーズはある
		・キッチンカーの誘致には舗装されている広い場所が必要
		・花火大会の観客席の拡大、階段式護岸の整備、アクセス路の確保、運営本部スペースの確保
		・駐車スペース、電源、トイレ、混雑時の通信障害対策があるとイベントがしやすい
		・釣り堀などのイベントをして楽しめるものがあると良い
		・イベント時の音響による住環境への影響への懸念
		・野鳥の森や森林公園でのイベントは行われているが、計画地はそこまで自然が多くないため、ソフト面のイベントを行うと良い。
E-12	・音楽利用（練習等）	・音楽をやりたい人がいる一方で、静かにしてほしい人いて、解決できていないことがある。
F-5	・体が不自由な人に配慮した花火等の観覧環境の充実	・車いすの人が利用できるような広い有料観覧席があると良い。
F-6	・休憩施設の充実と案内の充実	・車椅子利用を考慮した休憩できるスペース（東屋など）が欲しい。
G-6	・ユニバーサルデザインのスポーツ環境づくり	・木陰でベタンクを練習できるスペースを整備してほしいという要望があった
I-3	・子供の遊び場の充実	・グラウンドの縮小により、自由に遊べる空間を作り出せるのではないか。
		・小さな子供が遊べる遊具があると良い
		子どもの遊ぶ空間とスポーツをする空間を分けると良い。直射日光対策（屋根）があると良い
		・まち中の大きな公園として、子供イベント広場のような空間があると良い（ニーズがある）
		・夏場水辺で親子連れが自然と遊べる空間ができると良い（小さな川、噴水、プール等の水遊びができる公園）
		・子供が安心して使えるしっかりとしたトイレがあると良い。
		・ベビーカー等で徒歩で移動する主婦層が利用する広場を駅から近い配置にすると良い
I-4	・親子で身軽に遊びに行ける工夫	・自転車利用をしやすくしたり、遊具等のレンタルサービスで、車で来なくても手ぶらで身軽に来て遊べるような空間、サービスがあると、子育て世代にとって良い。
その他		
B-3	・生活道路の安全性	・小学校前の道の安全性の懸念
C-6	・花火大会時の周辺生活道路の混雑緩和	・花火大会時の周辺生活道路の混雑を緩和したい
C-7	・かわまちづくりにより増加する自動車交通や駐車需要への対応	・かわまちづくりにより人の行き来が増えることは良いが、併せて道路や駐車場の整備を行い渋滞の解消を図る必要がある。
D-9	・荒川児童館の並木の保全	・荒川児童館の並木を残してほしいとの要望があった。
J-8	・備品倉庫の確保	・新体育館にイベント時のテント等の備品を保管する場を確保して、市民に貸し出してもらえると、イベント等が実施しやすくなる。防災にもつながる

注）赤字：留意事項、懸念点

参考資料

かわまちづくり　アンケート調査結果

熊谷市役所　建設部河川課

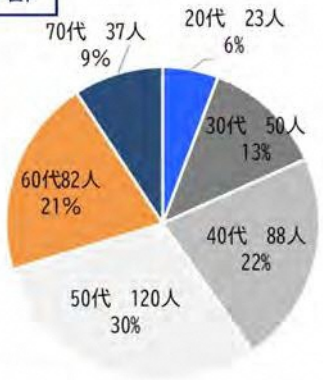
荒川緑地および周辺水辺等を対象とする「熊谷市荒川かわまちづくり計画（仮称）」の検討のため、熊谷市内に在住する皆様に、かわまちづくりに対するニーズについて、アンケート調査を行った。

■期間　：2023 年 11 月 20 日～2023 年 11 月 30 日
■対象　：熊谷市内の在住者
■調査方法：Web モニターアンケート（リサーチ会社の有するモニターを対象とする調査）
■回答数　：400 人
■調査項目：対象エリア（案）の利用状況、かわまちづくりへの期待、問題箇所等に関する自由意見等

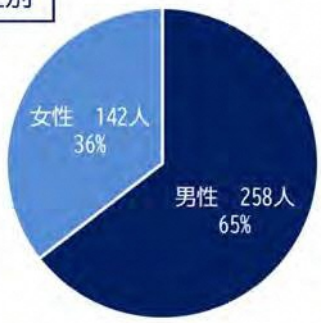
回答者の属性（n=400）

- 年齢は 50 代以上が半数以上を占めているが、性別、居住地を問わず、多くの方々にご回答いただいた。

年齢

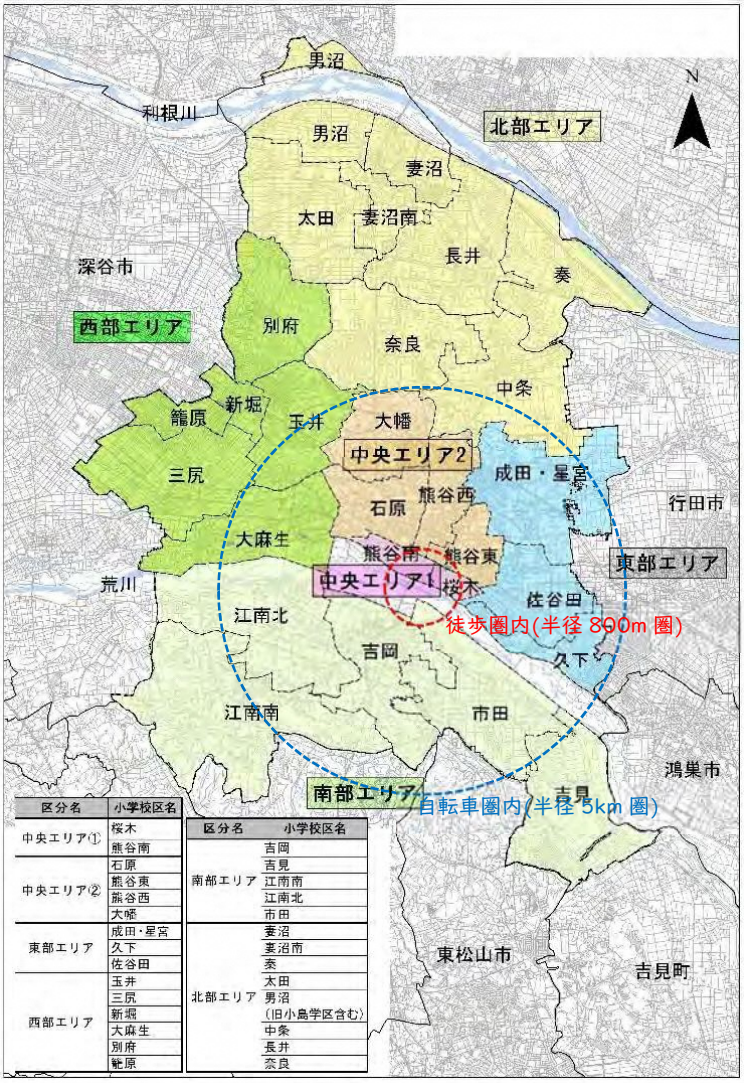


性別



居住地





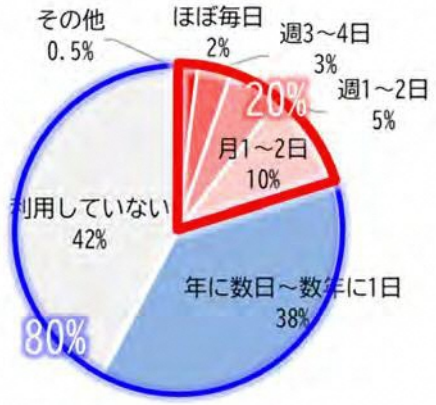
区分名	小学校区名
中央エリア①	桜木
	熊谷南
中央エリア②	石原
	熊谷東
	熊谷西
	大幡
東部エリア	成田・星宮
	久下
	佐谷田
西部エリア	玉井
	三尻
	新堀
	大麻生
	別府
	籠原

区分名	小学校区名
南部エリア	吉岡
	吉見
	江南南
	江南北
	市田
北部エリア	妻沼
	妻沼南
	秦
	太田
	男沼（旧小島学区含む）
	中条
	長井
	奈良

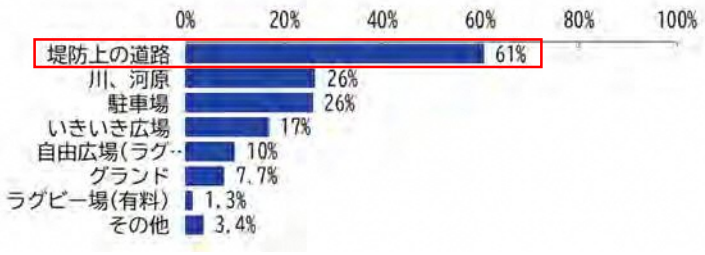
問１　対象エリアの利用状況について

- 対象エリアを月 1～2 日以上利用している人が約 20%、年に数日～数年に 1 日以下の人が約 80%と利用頻度が少ない。
- 利用者の約 50%が堤防上の道路を散歩やジョギング利用や、お祭り・イベント利用を目的としている。

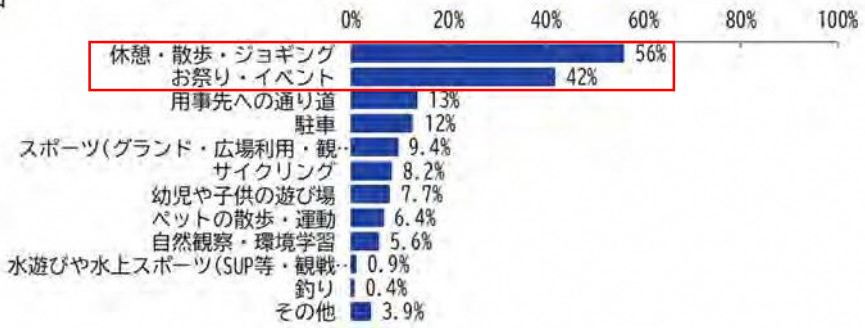
対象エリアの利用状況 (n=400)



利用場所 (n=233)



利用目的 (n=233)



問２　対象エリアの魅力について

- 対象エリアの桜堤や花火大会、景観・眺望などに魅力を感じている人が多くみられる。
- 河川空間へのニーズは、「散歩・ジョギング・サイクリングの魅力の充実」や「休憩施設の充実」、「駐車場や坂路の整備」のニーズが高い。

対象エリアの魅力

(回答数)(n＝233)	1位	2位	3位
桜堤がきれいなこと	87	55	23
熊谷花火大会、	35	58	36
景観、眺望が良いこと	35	34	30
芝生広場やグランドが充実	17	27	29
自然環境(野鳥、魚、草花)が豊かなこと	11	14	20
自然の中でスポーツや文化を楽しめること	14	9	16
公園施設(いきいき広場等)が充実していること	5	9	20
荒川の水がきれいなこと	12	7	5
夕涼みなど、涼しさが感じられること	1	1	12
特になし	15	18	41
その他	1	1	1

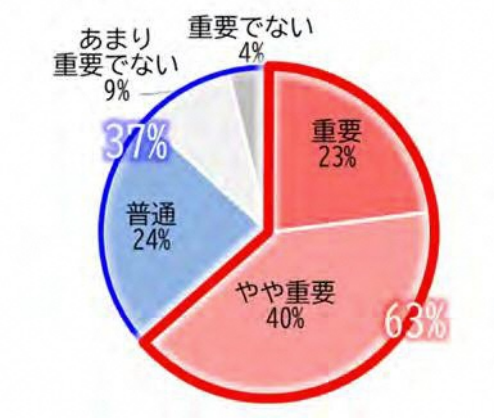
魅力充実に向けて良くなってほしいこと

(回答数)(n＝400)	1位	2位	3位
散歩・ジョギング・サイクリングの魅力の充実	65	65	35
休憩施設の充実(ベンチ、東屋など)	56	57	44
駐車場や坂路の整備	45	44	56
ゴミ対策や治安対策	47	36	34
夏場の暑さを和らげる親水施設の充実(せせらぎ水路・水遊び場など)	24	32	42
市民の憩いの場の充実(マルシェ、地域イベント、カフェ)	29	27	39
子供の遊び場の魅力の充実	34	22	25
バーベキューやキャンプの利用	26	22	27
自然との共生、環境学習の充実	15	26	33
バリアフリー環境の充実(スロープ、手すり、多機能トイレ)	19	29	20
スポーツ利用の魅力の充実、スポーツ文化の発信拠点	18	18	20
ドッグランなどペットとの触れ合いの魅力の	10	10	10
水上スポーツや釣りの魅力の充実	5	8	11
その他	7	4	4

問３　熊谷市荒川かわまちづくり計画(仮称)について

- 対象エリアの水辺空間の活用が熊谷市の活性化に重要と考えている人が約 60%と半数以上である。
- かわまちづくり計画に期待することとして、「安心・安全に暮らせるまちの推進」を1位で選ぶ人が最も多く、防災への関心が高い。第1～3位の合計の回答が多い項目として、順に「快適で暮らしやすいまちづくり」、「環境に優しく自然豊かなまちづくりの推進」が選ばれている。

熊谷駅周辺の魅力向上に
水辺空間を活かすことの重要性　(n=400)



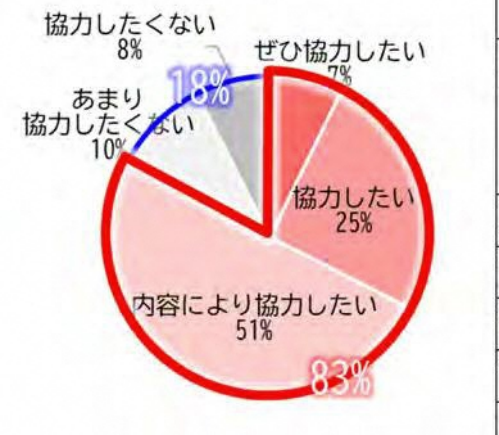
かわまちづくり計画に期待すること　(n=400)

(回答数)(n＝400)	1位	2位	3位
安心・安全に暮らせるまちの推進	150	56	53
快適で暮らしやすいまちづくりの推進	50	73	60
環境に優しく自然豊かなまちづくりの推進	43	45	59
活気と賑わいのある魅力的なまちの推進	48	49	33
子供、高齢者、障がい者等の誰もが暮らしやすいまちの推進	29	65	27
市民の健康づくりの場の推進	23	47	35
スポーツの魅力や文化の発信	14	15	52
子育て支援の環境づくりの推進	25	25	27
地域の文化・歴史の継承	9	10	26
地域コミュニティづくりの推進	6	12	25
その他	3	3	3

問４　かわまちづくり計画への参加について

- 魅力ある河川空間の充実や維持のためのイベント開催や維持管理へ約 80%の市民から協力的な意向が示されている。

イベント開催や維持管理への協力意向
(n=400)



※小数点以下四捨五入のため総計が 100%とならない

問5　かわまちづくり計画への自由意見
(n=400、意見数　111)

意見区分	意見数	主な意見の概要　※(　)内の数値は意見数を示す
河川空間の利活用に関する意見	64	防災・治水対策(9) 自然環境の維持、創出(8) 親水・川遊び (6) 祭り・イベントの開催(4) 健康増進、散歩、ジョギング(4)、釣り(4) アクセスの充実（動線、公共交通、渋滞改善）(4) 施設・トイレの整備(4) 駐車場の整備(3) 誰もが過ごせる・利用したいと思える場づくり(3) 子供が川遊びできる等(3) 堤防道路や河川敷地内の歩行者の安全対策(3) アウトドア・スポーツを楽しむ場(3) ある場所の有効活用(3) 桜並木の保全維持(2)、公園樹木の保全(1)
まちづくりの方向性	13	独自性・永続性、未来を見据えた開発 賑わい、魅力、行きたいと思えるまちづくり 来訪者を呼び込むまちづくり 誰もが楽しめるまちづくり 誰もが安全安心なまちづくり 自然豊かな、景観を活かしたまちづくり
管理・マナー対策	9	適正な管理、増水時の対応(4) 治安維持(3)、ゴミやマナー対策(2)
計画づくりの進め方	9	市民・住民意見の反映、市民のための計画づくり(5) 市民への説明、関心(4)
河川空間の利活用への参加意向	6	参加協力したい(3) 清掃・美化運動の市民参加の環境づくり(3)
税金、予算	7	税金の使い方、有効な活用(5) 予算確保の方法(2)
その他	3	何も期待していない(1)、利用することはない(1) 大麻生方面にも力を入れてほしい(1)
意見数	111	